

**2023年度
全学共通教育
プラットフォーム
講義概要 (シラバス)**



法政大学

科目一覽

[発行日: 2023/5/1] 最新版のシラバスは、法政大学 Web シラバス (<https://syllabus.hosei.ac.jp/>) で確認してください。

凡例 その他属性

〈他〉: 他学部公開科目

〈優〉: 成績優秀者の他学部科目履修制度対象科目

〈S〉: サーティフィケートプログラム_SDGs

〈ダ〉: サーティフィケートプログラム_ダイバーシティ

〈グ〉: グローバル・オープン科目

〈実〉: 実務経験のある教員による授業科目

〈ア〉: サーティフィケートプログラム_アーバンデザイン

〈未〉: サーティフィケートプログラム_未来教室

【A9801】 データサイエンス入門 A [児玉 靖司、高田 美樹、高松 邦彦] 春学期授業/Spring	1
【A9802】 データサイエンス入門 B [児玉 靖司、坂上 学、高橋 慎、長谷川 翔平、彌富 仁、伊藤 克亘、高田 美樹] 秋学期授業/Fall	2
【A9803】 データサイエンス応用基礎 A [児玉 靖司、宮崎 誠、高田 美樹、高松 邦彦、卯木 輝彦] 春学期授業/Spring	3
【A9804】 データサイエンス応用基礎 B [児玉 靖司、宮崎 誠、高田 美樹、高松 邦彦] 秋学期授業/Fall	4
【A9805】 データサイエンス応用基礎 C [高田 美樹] 春学期授業/Spring	5
【A9806】 データサイエンス応用基礎 D [高田 美樹] 年間授業/Yearly	6
【A9807】 データサイエンス応用基礎 E [廣津 登志夫] 春学期授業/Spring	8
【A9808】 データサイエンス応用基礎 F [廣津 登志夫] 秋学期授業/Fall	10
【A9809】 キャリアデザイン入門 [大八木 智一] 春学期授業/Spring	11
【A9810】 キャリアデザイン入門 [高橋 実] 春学期授業/Spring	13
【A9811】 キャリアデザイン入門 [大八木 智一] 春学期授業/Spring	16
【A9812】 キャリアデザイン入門 [大八木 智一] 春学期授業/Spring	18
【A9813】 キャリアデザイン入門 [宮木 あづさ] 春学期授業/Spring	20
【A9814】 キャリアデザイン入門 [宮木 あづさ] 春学期授業/Spring	22
【A9815】 キャリアデザイン入門 [大八木 智一] 春学期授業/Spring	24
【A9816】 キャリアデザイン応用 [大八木 智一] 秋学期授業/Fall	26
【A9817】 キャリアデザイン応用 [大八木 智一] 秋学期授業/Fall	28
【A9818】 キャリアデザイン応用 [大八木 智一] 秋学期授業/Fall	30
【A9819】 キャリアデザイン応用 [大八木 智一] 秋学期授業/Fall	32
【A9821】 課題解決型フィールドワーク [YONGUE JULIA SALLE] 秋学期授業/Fall	34
【A9822】 課題解決型フィールドワーク [高見 京太] 秋学期授業/Fall	36

PRI100LD

データサイエンス入門 A

児玉 靖司、高田 美樹、高松 邦彦

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：
 備考（履修条件等）：
 その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報通信技術の発展により、大量で多様なデータの収集が簡単にできるようになった。これらのデータが現代社会における様々な現象の解明や意思決定にどのように役立っているのか、その重要性和価値を理解し、ビッグデータが社会にもたらす影響を考察する。

【到達目標】

現代社会におけるデータサイエンスの役割と、データ収集・活用の一般的な方法を理解する。データサイエンスがもたらす利点だけでなく、リスクを認識し、データを守るための倫理・モラルを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

大学のディプロマポリシーのうち、「法政 DP-Ⅲ」「法政 DP-Ⅳ」に関連。

大学のディプロマポリシー詳細はこちら。

https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/gakui_juyo/

【授業の進め方と方法】

オンデマンド方式により配信された講義資料と動画で学習し、毎回の小テストによって知識を定着させる。講義内容でよく理解できなかった部分については、E-mail 等で個別に質問すること。また、小テストの結果や、受講生から得られた質問・意見などは学習支援システムを通じてフィードバックするので、それらを踏まえて講義内容を復習すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスと導入	本講義の目標と各回の概要を提示する。
第 2 回	情報とは・ビッグデータとは	データを種類に分け、それぞれの特徴と実例を紹介する。
第 3 回	社会で起きている変化・社会におけるデータの活用	社会の中で、すでにデータが活用されている事例、研究でこれからの活用が期待される事例を紹介する。
第 4 回	オープンデータの利用	収集したデータを社会に還元するためのオープン化が進められている。どこにどのようなデータがあり、どのように利用できるのかを紹介する。
第 5 回	データ解析のための技術	取得したデータを活用するための解析技術について、予測や分類の手法を紹介する。
第 6 回	データの可視化	データ解析の結果や、データの特徴を人間にわかりやすく提示する方法を紹介する。
第 7 回	データサイエンスのサイクル PPDAC	データを活用した問題解決の方法を紹介する。
第 8 回	統計的品質管理	生産現場などにおける「もの」の品質管理について統計的に分析する方法を紹介する。

第 9 回 画像データの活用 画像データは、今後その利用がますます重要視されてくる。画像データの扱い方と活用事例を紹介する。

第 10 回 データ倫理 データを扱う上での倫理について紹介する。データと情報の違いについても紹介する。

第 11 回 個人情報の保護 データに紐づいている個人情報の適切な取り扱いについて解説する。

第 12 回 データを守る情報セキュリティ 1 データの重要度が増している昨今、情報セキュリティもまた重要である。どのようなリスクに対し、どのような対策が必要なのかを解説する。

第 13 回 データを守る情報セキュリティ 2 情報を守る仕組み、技術を解説する。一人ひとりが気をつけるべき点について注意喚起を行う。

第 14 回 まとめ 本講義のまとめを行い、授業内総合テストを実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。オンラインで課される小テスト等に取り組むこと。

【テキスト（教科書）】

講義資料として毎週学習支援システムより配布する。

【参考書】

・大学生のためのデータサイエンス I オフィシャルスタディーノート 滋賀大学データサイエンス学部編
 ・社会人のためのデータサイエンス入門 オフィシャルスタディーノート 総務省統計局
 ほか随時講義資料に掲載する

【成績評価の方法と基準】

授業内のチェックテスト（60%）と授業内総合テスト（40%）の合計点で評価を行う。
 毎回のチェックテストには、受験期限があるので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

わかりにくい部分を修正していく。

【学生が準備すべき機器他】

オンデマンドのため、動画を視聴し、学習支援システムにアクセスすることのできる端末。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

This course aims to experience the process of the data science technology using the real data that can be collected on the Internet. Students also know the practical examples of the data science technologies in the real world.

【Learning Objectives】

Understand the process of collecting, analyzing and visualizing real data. Understanding the contribution and role of data science in society, three important elements in data science: how to collect data from the Internet, generally used analytical methods, and interpretation and visualization of analytical results, and their utilization.

【Learning Activities Outside of Classroom】

The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each. Work on quizzes, etc. that are imposed online.

【Grading Criteria /Policy】

The total score for each check test (60%), in-class comprehensive test (final test), and submission of each survey will be evaluated at a rate of 40%.

Please note that there is a deadline for submitting each check test and each questionnaire.

PRI100LD

データサイエンス入門 B

児玉 靖司、坂上 学、高橋 慎、長谷川 翔平、彌富 仁、伊藤 克亘、高田 美樹

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：

備考（履修条件等）：

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ビッグデータが社会の中でどのように役立っているのか、実例を学び、実際にインターネット等で収集できる実データを扱ったデータサイエンスを体験する。

【到達目標】

本物のデータを収集・分析・可視化する過程を理解する。データサイエンスの社会における貢献と役割を理解し、インターネットからのデータの収集方法、一般的に使われる分析法、そして、分析結果の解釈や可視化、さらにはその活用というデータサイエンスにおいて重要な3つの要素を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

大学のディプロマポリシーのうち、「法政 DP-Ⅲ」「法政 DP-Ⅳ」に関連。

大学のディプロマポリシー詳細はこちら。

https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/gakui_juyo/

【授業の進め方と方法】

オンデマンド方式により配信された講義資料と動画で学習し、小テスト等によって知識を定着させる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスと導入	この講義の概要と学修内容について
第 2 回	事例紹介 1 会計・金融におけるデータサイエンス・AI の活用	データサイエンス・AI 技術がどのように活用されているかを、会計・金融における事例を通じて知る
第 3 回	事例紹介 2 ファイナンスにおけるデータサイエンス・AI の活用	データサイエンス・AI 技術がどのように活用されているかを、ファイナンスにおける事例を通じて知る
第 4 回	事例紹介 3 マーケティングにおけるデータサイエンス・AI の活用	データサイエンス・AI 技術がどのように活用されているかを、マーケティングにおける事例を通じて知る
第 5 回	事例紹介 4 植物・医療におけるデータサイエンス・AI の活用	データサイエンス・AI 技術がどのように活用されているかを、植物医科における事例を通じて知る
第 6 回	事例紹介 5 音声処理におけるデータサイエンス・AI の活用	データサイエンス・AI 技術がどのように活用されているかを、音声・音響処理における事例を通じて知る
第 7 回	e-Stat の使い方 データの収集	e-Stat を例に実データの取得方法について学ぶ
第 8 回	データの分析 1 ヒストグラムと箱ひげ図	ヒストグラムや箱ひげ図といった具体的なデータ処理手法を体験する
第 9 回	データの分析 2 平均・分散・標準偏差	平均・分散・標準偏差といった代表的な統計処理手法を体験する

第 10 回	データの分析 3 散布図と相関係数	散布図や相関係数といった具体的なデータ処理手法を体験する
第 11 回	データの分析 4 回帰	具体的なデータ処理手法として回帰を体験する
第 12 回	データ表現（可視化）	データの可視化について学ぶ
第 13 回	質的なデータの解析	質的なデータの解析手法について学ぶ
第 14 回	まとめ	本講義を振り返り総括する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。オンラインで課される小テスト等に取り組むこと。

【テキスト（教科書）】

講義内容は映像で提供する。また、必要な資料があれば授業支援システムより配布する。

【参考書】

・大学生のためのデータサイエンスⅠ オフィシャルスタディーノート 滋賀大学データサイエンス学部編

・社会人のためのデータサイエンス入門 オフィシャルスタディーノート 総務省統計局

【成績評価の方法と基準】

各回のチェックテスト（85%）、授業内総合テスト（最終テスト）と毎回のアンケートの提出の合計点（15%）でこの割合で評価を行う。毎回のチェックテストと毎回のアンケートには、提出期限があるので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

アンケートや質問箱への丁寧なフィードバックに心がける。

【学生が準備すべき機器他】

オンデマンドのため、動画を視聴し、授業支援システムにアクセスすることのできる端末。

Excel をインストールして実行できるパソコン

【Outline (in English)】

【Course Outline】

This course aims to experience the process of the data science technology using the real data that can be collected on the Internet. Students also know the practical examples of the data science technologies in the real world.

【Learning Objectives】

Understand the process of collecting, analyzing and visualizing real data. Understanding the contribution and role of data science in society, three important elements in data science: how to collect data from the Internet, generally used analytical methods, and interpretation and visualization of analytical results, and their utilization.

【Learning Activities Outside of Classroom】

The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each. Work on quizzes, etc. that are imposed online.

【Grading Criteria /Policy】

The total score for each check test (85%), in-class comprehensive test (final test), and submission of each survey will be evaluated at a rate of 15%.

Please note that there is a deadline for submitting each check test and each questionnaire.

PRI200LD

データサイエンス応用基礎 A

児玉 靖司、宮崎 誠、高田 美樹、高松 邦彦、卯木 輝彦

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：
 備考（履修条件等）：
 その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

数理・データサイエンス・AI（リテラシーレベル）を補完的・発展的に学ぶ。データから意味を抽出し、現場にフィードバックする能力、AI を活用し課題解決につなげる基礎能力について運用を行う側面を中心に修得する。そして、自らの専門分野に数理・データサイエンス・AI を応用するための大局的な視点を獲得する。

【到達目標】

データサイエンスおよびデータエンジニアリングの基本的な概念と手法、応用例を学ぶことで、データから意味を抽出し、現場にフィードバックするための方法を理解する。
 AI の基本的な概念と手法、応用例を通して、AI を社会に生かしていく方法を学び、AI 技術を活用した課題解決とは何かを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

大学のディプロマポリシーのうち、「法政 DP-Ⅲ」「法政 DP-Ⅳ」に関連。

大学のディプロマポリシー詳細はこちら。

https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/gakui_juyo/

【授業の進め方と方法】

オンデマンド方式により配信された講義資料と動画で学習し、毎回の小テストによって知識を定着させる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義の概要と進め方、諸注意
第 2 回	データ駆動社会とデータサイエンス	データ駆動型社会においてデータサイエンスを学ぶことの意義を理解する。データ活用の流れを理解する。
第 3 回	ビッグデータとデータエンジニアリング	ビッグデータとデータエンジニアリングを実現可能とした背景として ICT(情報通信技術) の発展を理解する。ビッグデータの活用事例を理解する。
第 4 回	データの観察と可視化	データ分析を進めるための考え方を理解する。グラフによる可視化の方法を理解する。
第 5 回	データの分析	回帰分析の方法と応用例を理解する。時系列分析の方法と応用例を理解する。
第 6 回	データ収集と加工	通信技術と通信プロトコルを理解する。IoT からのデータ収集の方法を理解する。データクレンジングの必要性を理解する。
第 7 回	情報セキュリティ	情報資産とリスクを理解する。脅威と対策を理解する。
第 8 回	AI の歴史	人工知能研究のはじまりから現在に至るまでの歴史を理解する。
第 9 回	AI 技術	機械学習の種類と概要を理解する。

第 10 回	AI の応用分野	人工知能技術の活用について理解する。
第 11 回	AI と社会	データや AI にまつわる基本的な倫理と合意事項について理解する。AI の知的財産権について理解する。
第 12 回	AI の構築と運用	AI の開発環境と実行環境を理解する。AI の品質保証と信頼性を理解する。
第 13 回	AI を活用したシステム	AI 技術によるサービスの例を理解する。
第 14 回	まとめ	期末テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

講義資料として毎週授業支援システムより配布する。

【参考書】

授業支援システムより適宜指定する。

【成績評価の方法と基準】

毎回のチェックテスト（70%）と授業内総合テストと毎回のアンケートの提出（30%）の合計点で評価を行う。毎回のチェックテストには、受講期限があるので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

質問に対して、できるだけ迅速に返答するようにする。

【学生が準備すべき機器他】

インターネットに接続できる端末。オンデマンドの動画を視聴、ブラウザから小テストに回答、授業支援システムにアクセスする必要がある。

【Outline (in English)】

【Course Outline(in English)】

You can learn mathematics, data science and AI in a complementary and developmental way. You can acquire the ability to extract meaning from data and provide feedback to the field, as well as the basic ability to utilize AI to solve problems, focusing on the operational aspect.

So you will acquire a broad perspective for your own fields to apply mathematics, data science, and AI.

【Learning Objectives】

Using the basic concepts, methods and application examples of data science and data engineering, you can understand methods for extracting meaning from data and providing feedback to the field.

【Learning Activities Outside of Classroom】

The standard preparatory study and review time for this class is 2 hour each. Work on quizzes, etc, that are imposed online.

【Grading Criteria/Policy】

Evaluation is based on the total score of each check test(70%),in-class comprehensive test(final test) and submission of each questionnaire(30%). Please note that each check test has a deadline.

PRI200LD

データサイエンス応用基礎 B

児玉 靖司、宮崎 誠、高田 美樹、高松 邦彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：
 備考（履修条件等）：
 その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

数理・データサイエンス・AI（リテラシーレベル）を補完的・発展的に学ぶ。データから意味を抽出し、現場にフィードバックする能力、AI を活用し課題解決につなげる基礎能力について、それを支える技術的側面を中心に修得する。そして、自らの専門分野に数理・データサイエンス・AI を応用するための大局的な視点を獲得する。

【到達目標】

データサイエンスおよびデータエンジニアリングの基本的な概念と手法、応用例を学ぶことで、データから意味を抽出し、現場にフィードバックするための方法を理解する。

AI の基本的な概念と手法を学び、それを支える基本的な技術を学ぶことで、AI 技術を活用し課題解決につなげるとは何かを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

大学のディプロマポリシーのうち、「法政 DP-III」「法政 DP-IV」に関連。

大学のディプロマポリシー詳細はこちら。

https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/gakui_juyo/

【授業の進め方と方法】

オンデマンド方式により配信された講義資料と動画で学習し、毎回の小テストによって知識を定着させる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義の概要と進め方、諸注意
第 2 回	コンピュータの仕組みとデータの表現	コンピュータの仕組みを理解する。コンピュータ内部での情報（数値・文字・画像など）の表現を理解する。
第 3 回	数学基礎	データ分析に必要な数学（確率・線形代数）を理解する。
第 4 回	分析設計	データ分析の進め方を理解する。仮説検証の方法を理解する。クラスタリングによる階層化の方法を理解する。
第 5 回	アルゴリズム	流れ図の書き方理解する。
第 6 回	データベース	簡単なアルゴリズムを理解する。正規化によるデータベースの設計手法を理解する。SQL 文によるデータベース操作を理解する。
第 7 回	セキュリティ技術	暗号の必要性と仕組みを理解する。デジタル署名の仕組みを理解する。バックアップと冗長化の必要性を理解する。
第 8 回	機械学習の基礎と展望	機械学習の教師あり学習と教師なし学習のデータ分析手法を理解する。過学習の概念を理解する。
第 9 回	深層学習の基礎と展望	ニューラルネットワークの概要を理解する。ディープニューラルネットワークの概要を理解する。

第 10 回	AI による認識技術	AI による認識の概念を理解する。画像と音声について実社会での活用を理解する。
第 11 回	AI による予測と判断	AI による予測モデルと予測された結果を評価する方法を理解する。
第 12 回	AI による自然言語処理	AI による自然言語処理が活用されている場面を理解する。コーパスの活用を理解する。
第 13 回	AI とロボット	物理的な空間でのコンピュータと人間の接点としてのロボット技術を理解する。ロボットのためのデータサイエンス技術を学ぶ。
第 14 回	まとめ	期末テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
講義資料として毎週授業支援システムより配布する。

【参考書】
授業支援システムより適宜指定する。

【成績評価の方法と基準】
毎回のチェックテスト（70%）と授業内総合テストと毎回のアンケートの提出（30%）の合計点で評価を行う。毎回のチェックテストには、受講期限があるので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】
質問に対して、できるだけ迅速に返答するようにする。

【学生が準備すべき機器他】
インターネットに接続できる端末。オンデマンドの動画を視聴、ブラウザから小テストに回答、授業支援システムにアクセスする必要がある。

【Outline (in English)】
[Course Outline(in English)]
You can learn mathematics, data science and AI in a complementary and developmental way. You can acquire the ability to extract meaning from data and provide feedback to the field, as well as the basic ability to utilize AI to solve problems, focusing on the operational aspect.
So you will acquire a broad perspective for your own fields to apply mathematics, data science, and AI.

[Learning Objectives]
Using the basic concepts, methods and application examples of data science and data engineering, you can understand methods for extracting meaning from data and providing feedback to the field.

[Learning Activities Outside of Classroom]
The standard preparatory study and review time for this class is 2 hour each. Work on quizzes, etc, that are imposed online.

[Grading Criteria/Policy]
Evaluation is based on the total score of each check test(70%),in-class comprehensive test(final test) and submission of each questionnaire(30%). Please note that each check test has a deadline.

PRI200LD

データサイエンス応用基礎 C

高田 美樹

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：
 備考（履修条件等）：
 その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

数理・データサイエンス・AI（リテラシーレベル）を補完的・発展的に学び、データから意味を抽出し、現場にフィードバックする能力、AI を活用し課題解決につなげる基礎能力を習得するための実習を行う。そして、自らの専門分野に数理・データサイエンス・AI を応用するための大局的な視点を獲得する。本科目は、実習形態で開講するが、具体的には、数理・データサイエンス・AI の活用における一連のプロセスである「課題の発見と定式化」・「データの取り扱い」・「モデル化」・「結果の可視化」・「検証、活用」を実習を通じて学ぶことを目的にしている。

【到達目標】

データサイエンスおよびデータエンジニアリングの基本的な概念を実践することで、データから意味を抽出し、現場にフィードバックするための方法を理解する。

ExcelVBA マクロプログラミングを実習し、プログラミングの考え方とプログラミングによるデータ解析の手法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

大学のディプロマポリシーのうち、「法政 DP-Ⅲ」「法政 DP-Ⅳ」に関連。

大学のディプロマポリシー詳細はこちら。

https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/gakui_juuyo/

【授業の進め方と方法】

オンデマンド方式により配信された講義資料と動画で学習し、動画に沿って実習を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	<ul style="list-style-type: none"> プログラミングの考え方と、とりまく環境を理解する。 Excel の使い方をおさらいする。 自動マクロ記録を利用してサブルーチンの呼び出しを実習する。
第 2 回	オブジェクト・プロパティ・メソッド	<ul style="list-style-type: none"> セルに数値を代入する方法を実習する。 セルに Excel の式や関数を設定する方法を実習する。
第 3 回	行ごとの処理	<ul style="list-style-type: none"> 文字の色や背景色の設定を実習する。 レコード内のデータ処理を実習する。
第 4 回	繰り返し	<ul style="list-style-type: none"> 繰り返し処理の記述を実習する。 大量のデータのレコード内の処理を実習する。
第 5 回	条件分岐	<ul style="list-style-type: none"> 二者択一の構文を実習する。 大量のデータの各レコードにおける選択的な処理を実習する。

第 6 回	多分岐	<ul style="list-style-type: none"> 多分岐の構文を実習する。 大量のデータの各レコードにおける多肢選択処理を実習する。
第 7 回	合計の算出	<ul style="list-style-type: none"> 全レコードの合計値を求める方法を実習する。
第 8 回	変数と型	<ul style="list-style-type: none"> 変数を導入し、型の概念を理解する。 変数を利用した実習を行う。
第 9 回	最大値の求め方	<ul style="list-style-type: none"> 最大値を求めるアルゴリズムを理解し、最大値を求める実習を行う。 最大値の位置を求める実習を行う。
第 10 回	データのクレンジング	<ul style="list-style-type: none"> 空欄を埋める、形式を変更するなど、データ解析を行うために必要な処理を実習する。
第 11 回	配列的な処理	<ul style="list-style-type: none"> インデックスを利用したデータの検索を実習する。
第 12 回	配列	<ul style="list-style-type: none"> 配列を利用したクロス集計を実習する。 SQL の実習を行う。
第 13 回	データベース	
第 14 回	演習	期末テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

講義資料として毎回授業支援システムより配布する。

【参考書】

・ExcelVBA 本格入門 大村あつし 技術評論社

【成績評価の方法と基準】

各回の章末テスト（85%）、授業内総合テストと毎回のアンケートの提出の合計点（15%）で評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

質問が出た内容について、補足説明します。

【学生が準備すべき機器他】

インターネットに接続できる端末。オンデマンドの動画を視聴、ブラウザから小テストに回答、授業支援システムにアクセスする必要がある。

Excel が動作するパソコン（Windows・Mac）

【オフィスアワー】

質問箱にて受け付ける

【Outline (in English)】

(Course outline)

Can learn about mathematics, data science, and AI (literacy level) Complementary and developmental. And can acquire the ability to extract meaning from data, to feed it back to the field, and to solve problems by utilizing AI by practical training. So will acquire a broad perspective for your own fields to apply mathematics, data science, and AI.

(Learning Objectives)

The goals of this course are to understand programming concepts and methods of data analysis through programming.

(Learning activities outside of classroom)

The standard preparatory study and review time for this class is 2 hour each. Work on quizzes, etc, that are imposed online.

(Grading Criteria /Policies)

Evaluation is based on the total score of each check test(85%),in-class comprehensive test(final test) and submission of each questionnaire(15%). Please note that each check test has a deadline.

PRI200LD

データサイエンス応用基礎 D

高田 美樹

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：

備考（履修条件等）：

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

数理・データサイエンス・AI 教育（リテラシーレベル）の教育を補完的・発展的に学び、データから意味を抽出し、現場にフィードバックする能力、AI を活用し課題解決につなげる基礎能力について実習を行う。そして、自らの専門分野に数理・データサイエンス・AI を応用するための大局的な視点を獲得する。本科目は、実習形態で開講するが、具体的には、数理・データサイエンス・AI の活用における一連のプロセスである「課題の発見と定式化」・「データの取り扱い」・「モデル化」・「結果の可視化」・「検証、活用」を実習を通じて学ぶことを目的にしている。

【到達目標】

データサイエンスおよびデータエンジニアリングの基本的な概念を実践することで、データから意味を抽出し、現場にフィードバックするための方法を理解する。

Python プログラミングを実習し、プログラミングの考え方とプログラミングによるデータ解析の手法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

大学のディプロマポリシーのうち、「法政 DP-Ⅲ」「法政 DP-Ⅳ」に関連。

大学のディプロマポリシー詳細はこちら。

https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/gakui_juyo/

【授業の進め方と方法】

オンデマンド方式により配信された講義資料と動画で学習し、動画に沿って実習を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	<ul style="list-style-type: none"> プログラミングの考え方ととりまく環境を理解する。 実習環境を整備し、利用法を学ぶ。
第 2 回	数値演算	<ul style="list-style-type: none"> 簡単な算術計算を行い、演算子の種類を学ぶ。 コメント文の有効性と書き方を学ぶ。
第 3 回	変数の基礎	<ul style="list-style-type: none"> 変数の概念を学び、簡単な計算を実習する。 変数の内容を表示する方法を学ぶ。
第 4 回	論理・比較演算と分岐の基礎	<ul style="list-style-type: none"> 論理・比較演算と分岐の基礎・論理値の概念を学び、論理演算・比較演算を理解する。 論理値を用いた分岐処理の基礎を実習する。
第 5 回	文字列	<ul style="list-style-type: none"> 文字を加工するための演算を学ぶ。 文字の内部表現を理解する。
第 6 回	リスト	<ul style="list-style-type: none"> リストを用いて、複数のデータを扱う方法を実習する。

第 7 回 条件分岐

- 多肢選択や、分岐の入れ子を選び、少し複雑な条件による選択構造の実践例を実習する。

第 8 回 辞書

- キーとバリューの組でデータを表現する方法を学ぶ。

第 9 回 繰り返し

- リストや辞書に格納されたデータを繰り返しで扱う方法を学ぶ。
- インターネットなどから収集したデータを読み込んで処理する方法を実習する。

第 10 回 ファイルの読み込み

第 11 回 グラフ（1）

- Matplotlib ライブラリを用いてグラフを作成し、データを可視化する。

第 12 回 グラフ（2）

- Seaborn ライブラリを用いてよい多彩なグラフを作成し、データを可視化する。

第 13 回 総合演習（1）

- インターネットから情報を収集し、これまで学んだ内容をすべて利用してデータ分析に向けたデータの加工を行う。

第 14 回 総合演習（2）

- 第 13 回で取得した複数のデータを可視化し、比較検討などの考察を行う。

第 15 回 春学期の復習

・春学期に学習した内容を

第 16 回 関数

Python の基礎を中心に復習する。
 ・関数を利用することの利点を理解し、処理を部品化する過程を学ぶ。

第 17 回 関数の引数（1）

- 関数に値を入力する技術として引数を学び、関数をより汎用化する方法を実習する。

第 18 回 関数の引数（2）

- 関数に複数の引数を与える記述を学ぶ。引数のデフォルト値の指定や可変長の引数を学ぶことでより実践的な関数の利用を実習する。

第 19 回 関数の戻り値

- 関数から出力を得る技術として戻り値を学び、呼び出し側との連携を実習する。

第 20 回 Numpy ライブラリ

- 配列を構築し、演算を行う。
- スライスによる部分取り出しの方法を実習する。

第 21 回 行列の演算の応用

- Numpy を利用すると行列の演算を容易に行うことができる。簡単な線形代数を実習する。

第 22 回 Pandas ライブラリ

- シリーズとデータフレームの利用法を学び、CSV ファイルからデータを読み込む方法を実習する。

第 23 回 データの絞り込み

- データフレームを利用して、大量のデータの中から必要なデータを抽出する方法を学び実習する。

第 24 回 データの統計量

- データフレームを利用して、大量のデータの統計量を求める方法を学び、実習する。

第 25 回 scikit-learn ライブラリ

- 機械学習の種類を学び、付属のデータを用いて、機械学習を試みる。

第 26 回 機械学習による分類

- 手書き文字の認識を実習する。

第 27 回 機械学習による回帰

- インターネットから取得したデータを利用して予測する実習を行う。

第 28 回 総合演習

- 1 年間の実習を通しての総復習を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

講義資料として毎週授業支援システムより配布する。

【参考書】

必要に応じて授業支援システムより提示する。

【成績評価の方法と基準】

各回の講義内容に対する課題による (100%)

【学生の意見等からの気づき】

はじめての科目のため、なし

【学生が準備すべき機器他】

オンデマンドのため、動画を視聴し、授業支援システムにアクセスすることのできる端末。

インターネットに接続できるパソコン (Mac でも Windows でも可能)

【その他の重要事項】

特になし

【オフィスアワー】

質問箱により受け付ける

【Outline (in English)】

(Course outline)

Can learn about mathematics, data science, and AI (literacy level) Complementary and developmental. And can acquire the ability to extract meaning from data, to feed it back to the field, and to solve problems by utilizing AI by practical training. So will acquire a broad perspective for your own fields to apply mathematics, data science, and AI.

(Learning Objectives)

The goals of this course are to understand programming concepts and methods of data analysis through programming Python.

(Learning activities outside of classroom)

The standard preparatory study and review time for this class is 2 hour each. Work on quizzes, etc, that are imposed online.

(Grading Criteria /Policies)

Evaluation is based on the total score of each check test(100%), Please note that each check test has a deadline.

PRI200LD

データサイエンス応用基礎 E

廣津 登志夫

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：
 備考（履修条件等）：
 その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ビッグデータの分析においてプログラムによるデータ処理は重要な役割を果たす。本講義では、データ分析やデータマイニングの基礎を Python のプログラミングの演習を通じて学び、将来的に大規模なデータ処理を扱うための基礎を身につけることを目的とする。具体的には、分析の目的や前提条件に応じた適切な課題の把握、対象のモデル化、分析・可視化・検証といった、データ分析に必要な一連のプロセスを演習を通じて学んでいく。

（本講義では C,C++, Java, Fortran, Python, Ruby などの手続き型プログラミング言語を学んだことがあり、初歩的なプログラムを記述することができることを前提とする。Python の文法等については、本講義受講前のプログラミング言語の知識を前提として、データ処理に必要な最低限しか扱わないので注意すること）

【到達目標】

以下のようなことができるようになることを目標とする。
 ・データ分析の基本的な技術について理解する
 ・Python を用いて、基本的なデータ処理（モデル化と分析）をする
 ・Python を用いて、データを視覚化し検証する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

大学のディプロマポリシーのうち、「法政 DP-III」「法政 DP-IV」に関連。

大学のディプロマポリシー詳細はこちら。

https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/gakui_juyo/

【授業の進め方と方法】

オンデマンド方式により配信された講義資料と動画で学習し、課題によって知識を定着させる。当初の数週間はデータ分析の準備として、処理に用いる Python の基礎知識を学び、以降は各週ごとにデータ分析や視覚化、検証などのデータ処理に関するトピックを学んでいく。週 1 回のペースで講義映像が開示されるので、遅れずに視聴し学習すること（一定期間で視聴不可になるので注意）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	・データエンジニアリングとは何か ・コンピュータの基礎 ・用いるプログラミング言語について ・プログラミング環境の準備
第 2 回	Python 入門 (1)	・基本的なプログラムの記述 ・変数、リスト ・条件分岐、制御構造
第 3 回	Python 入門 (2)	・辞書型データ ・関数 ・組み込み関数
第 4 回	Python 入門 (3)	・クラス（複合データの記述） ・ファイル入出力処理
第 5 回	ライブラリの利用 (1)	・モジュールの仕組み ・標準ライブラリ

第 6 回	ライブラリの利用 (2)	・NumPy ・SciPy
第 7 回	データ加工	・Pandas によるデータ処理 ・データ欠損への対応 ・データクレンジング
第 8 回	データの視覚化	・Matplotlib による描画 ・分布の描画 ・箱ひげ図の描画
第 9 回	記述統計と単回帰	・ヒストグラム、平均、中央値、最頻値、分散、標準偏差 ・単回帰による分析
第 10 回	機械学習：回帰モデル	・回帰モデル ・重回帰による分析
第 11 回	機械学習：ロジスティック回帰	・ロジスティック回帰による分析
第 12 回	機械学習：決定木	・決定木 ・セグメントの抽出とその特徴
第 13 回	機械学習：教師なし学習	・教師なし学習 ・クラスタリング ・クラスター数の推定
第 14 回	機械学習：主成分分析	・主成分分析 ・モデルの検証

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき 4 時間を標準とする。講義資料や映像により復習すると同時に課題に取り組むこと。

【テキスト（教科書）】

参考書などをベースに作成した講義資料（スライド PDF）を提供する。

【参考書】

・東京大学のデータサイエンティスト育成講座、マイナビ出版、2019
 ・R と Python で学ぶ実践的データサイエンス&機械学習、技術評論社、2021

【成績評価の方法と基準】

各回の講義内容に対する課題による (100%)
 なお、講義映像は対面講義の教室での座学授業に替わるものであることから、授業への出席が単位取得の前提であるのと同様、その視聴は単位取得の前提となる。

【学生の意見等からの気づき】

前年度、一部に受講生が映像視聴の考え方（視聴が単位取得の前提）で混乱したようなので、成績評価の基準ではないが上記に明示した。

【学生が準備すべき機器他】

Python を使うことができる PC（Windows, Mac, Linux のいずれでも可、ソフトウェアの導入については初回講義に説明するので事前準備は不要）

【その他の重要事項】

本講義は C,C++, Java, Fortran, Python, Ruby などの手続き型プログラミング言語を学んだことがあり、初歩的なプログラムを記述することができることを前提としている。Python の文法等については、本講義受講前のプログラミング言語の知識を前提として、データ処理に必要な最低限しか扱わない。Python プログラミングを学ぶ目的であれば本講義の趣旨に合わないので、そのための講義を履修すること。また、プログラミングの経験に乏しい場合は、R による同内容の講義が開設されるので、そちらを履修することをすすめる。なお、本講義は「データサイエンス応用基礎 F」と同等の内容であることから、重複して履修することはできない。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Data processing using programming languages plays an important role in big data analysis. In this lecture, students will learn the basics of data analysis and data mining through Python programming exercises. This lecture covers basics of all process of the data analysis, such as modeling, analysis, visualization and validation.

(This lecture assumes that students can write simple programs using procedure programming languages such as C, C++, Java, Fortran, Python, Ruby, etc. Note that model and syntax of Python will be covered only to the minimum required for data processing, assuming that students have basic knowledge of programming languages.)

[Learning Objectives]

The objective of this course is to acquire the foundation for handling large-scale data processing in the future.

[Learning activities outside of classroom]

Students will be expected to spend four hours to pre/post study of the course, and solve the assignment every other week.

[Grading Criteria /Policy]

Your overall rating in this class will be calculated from the results of the assignment (100%).

PRI200LD

データサイエンス応用基礎 F

廣津 登志夫

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：

備考（履修条件等）：

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ビッグデータの分析においてプログラムによるデータ処理は重要な役割を果たす。本講義では、データ分析やデータマイニングの基礎を R を用いた演習を通じて学び、将来的に大規模なデータ処理を扱うための基礎を身につけることを目的とする。具体的には、分析の目的や前提条件に応じた適切な課題の把握、対象のモデル化、分析・可視化・検証といった、データ分析に必要な一連のプロセスを演習を通じて学んでいく。

本講義の内容はデータサイエンス応用基礎 E と同等であるが、統計解析ツールである R を用いることで、プログラミングの前提知識があまりなくても学べるように構成する。

【到達目標】

- 以下のようなことができるようになることを目標とする。
- データ分析の基本的な技術について理解する
- R を用いて、基本的なデータ処理（モデル化と分析）をする
- R を用いて、データを視覚化し検証する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

大学のディプロマポリシーのうち、「法政 DP-Ⅲ」「法政 DP-Ⅳ」に関連。

大学のディプロマポリシー詳細はこちら。

https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/gakui_juyo/

【授業の進め方と方法】

オンデマンド方式により配信された講義資料と動画で学習し、課題によって知識を定着させる。当初の数週間はデータ分析の準備として、処理に用いる R の基礎知識を学び、以降は各週ごとにデータ分析や視覚化、検証などのデータ処理に関するトピックを学んでいく。週 1 回のペースで講義映像が開示されるので、遅れずに視聴し学習すること（一定期間で視聴不可になるので注意）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	・データエンジニアリングとは何か ・コンピュータの基礎 ・用いるプログラミング言語について ・プログラミング環境の準備
第 2 回	R 入門 (1)	・R によるデータの扱い
第 3 回	R 入門 (2)	・データの入出力 ・データの結合や操作 ・データの演算
第 4 回	R 入門 (3)	・分岐や繰り返し
第 5 回	パッケージの利用	・パッケージの仕組み
第 6 回	データの視覚化	・分布の描画 ・箱ひげ図の描画
第 7 回	データ加工	・データ欠損への対応 ・データクレンジング
第 8 回	記述統計	・ヒストグラム、平均、中央値、最頻値、分散、標準偏差

第 9 回	単回帰	・単回帰による分析
第 10 回	機械学習：回帰モデル	・回帰モデル ・重回帰による分析
第 11 回	機械学習：ロジスティック回帰	・ロジスティック回帰による分析
第 12 回	機械学習：決定木	・決定木 ・セグメントの抽出とその特徴
第 13 回	機械学習：教師なし学習	・教師なし学習 ・クラスターリング ・クラスター数の推定
第 14 回	機械学習：主成分分析	・主成分分析 ・モデルの検証

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき 4 時間を標準とする。講義資料や映像により復習すると同時に課題に取り組むこと。

【テキスト（教科書）】

参考書などをベースに作成した講義資料（スライド PDF）を提供する。

【参考書】

・必要に応じて講義において LMS 等を通じて紹介する

【成績評価の方法と基準】

各回の講義内容に対する課題による (100%)
なお、講義映像は対面講義の教室での座学授業に替わるものであることから、授業への出席が単位取得の前提であるのと同様、その視聴は単位取得の前提となる。

【学生の意見等からの気づき】

前年度、データサイエンス応用基礎 E において、一部に受講生が映像視聴の考え方（視聴が単位取得の前提）で混乱したようなので、成績評価の基準ではないが上記に明示した。

【学生が準備すべき機器他】

R を使うことができる PC (Windows, Mac, Linux のいずれでも可、ソフトウェアの導入については初回講義に説明をするので事前準備は不要)

【その他の重要事項】

本講義は「データサイエンス応用基礎 E」と同等の内容であることから、重複して履修することはできない。

【Outline (in English)】

[Course outline]
Data processing using programming languages plays an important role in big data analysis. In this lecture, students will learn the basics of data analysis and data mining through R programming exercises. This lecture covers basics of all process of the data analysis, such as modeling, analysis, visualization and validation.

The content of this course is equivalent to "The Basics of Applied Data Science E", but by using R, a statistical analysis tool, the course will be structured so that students can learn it without much prerequisite knowledge of programming.

[Learning Objectives]

The objective of this course is to acquire the foundation for handling large-scale data processing in the future.

[Learning activities outside of classroom]

Students will be expected to spend four hours to pre/post study of the course, and solve the assignment every other week.

[Grading Criteria /Policy]

Your overall rating in this class will be calculated from the results of the assignment (100%).

CAR100LG

キャリアデザイン入門

大八木 智一

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 2/Fri.2 | キャンパス：市ヶ谷

備考（履修条件等）：

その他属性：〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、①大学での過ごし方、②社会で働くということについて、一緒に考えていくことで、皆さんが学生生活を有意義に過ごせるよう支援していきたいと思えます。

授業の中では、より長期的な人生を歩むうえで必要となる考え方や、社会で働くということについて基本的な知見を提供します。これらを通じて、自分で考えて自分で行動できるような姿勢を培うことが、この授業の目的です。

【到達目標】

自分の頭で考え、率先して行動できるようになることを目標とします。受験を含む高校まででは、課題が与えられ、正解をできるだけ早く見つける能力が求められてきました。しかし社会では、自ら問題を発見し、解決に向けて行動していく必要があります。また、誰かが正解を与えてくれるわけでもありません。正解も一つではないでしょう。今日の正解が明日も正しいとは限りません。

そのような中では、自ら課題をみつけ、解決策を考え、そして実行し続けていく姿勢が求められます。大学の4年間では、考えながら行動し続ける姿勢、言い換えればPDS（Plan, Do, See）サイクルを回していける基本的な力を身につけてほしいと思えます。

最初は小さな一歩でも構いません。半年の間に、授業をきっかけにして何か行動してみることを目指しましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

環境の動向を考慮しながら参加型の授業スタイルをできる限り取り入れ、教員や学生同士のコミュニケーション機会を設けます（グループワーク、対話、レポートのフィードバックなど）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション 【初回はオンデマンド授業になります】	本科目の授業趣旨、授業の進め方、求める参加態度、カリキュラム等について概要と授業を受講する意義について説明する。また学生生活を送るにあたって必要な支援を受けられる学内の機関について紹介する【キーワード：キャリアデザイン、大学生としての学生生活を始めよう！、困ったときのコンタクト先】
2	大学での学び	大学とはどのような場なのか、何のために大学で学ぶのか、大学の付加価値について考える。また、大学生時代にしかできない法政大学という場を有効に活用する学び方や、大学生として生活、学修していく際の基礎知識について学ぶ。【キーワード：自ら学ぶ、大学の活用】

3	激変する社会環境と直面する課題	現代は世界的に社会環境が激変している時代である。このような時代において社会が直面している課題をSDGsの観点から読み起こし、みなさん自身がこれらの諸課題に対してどのような関与、貢献ができそうかについて考える。併せて、わが国の将来に向けて重大な課題となっている少子高齢化の問題についても考えていく。 【キーワード：SDGs、少子高齢化、パンデミック】
4	働き方と多様性	これからの変化の激しい社会において自分を生かしていく働き方について考えていく。ダイバーシティーに関する基本的考え方に加え、雇用形態の変化やパラレルキャリア、短時間労働化の可能性、テレワークなど、新しい働き方のあり方について考える。 【キーワード：ダイバーシティー】
5	働くことの意味	働くとはどういうことなのか？これまでの主な労働論や労働観にも触れながら、これからの時代の「働く」を考えていく。特に、働く目標と目的、動機、働くことを通じての自己実現と幸福の追求、提供価値の対価としての報酬、これからの働き方などの側面から考えていく。【キーワード：労働観、働く目的】
6	結婚、家族、ジェンダーを取り巻く諸問題	社会生活を営んでいくための基礎的な単位であるとともに生活の基盤ともなる家族、および、その周辺で密接に関連している結婚やジェンダーに関する諸問題について考察する。併せて共働き問題、子育て問題、家族関係の変容についても触れていく。【キーワード：結婚、家族、ジェンダー】
7	グローバル化社会と異文化理解	これからの世の中はグローバルな活動が今まで以上に当たり前になってくる。そのような社会において活動していくためには各自がグローバル人材として成長していくことが必要である。そのためにはどのような資質を備えていくべきなのかについて学ぶ。【キーワード：グローバル化、カルチャーマップ】
8	インターンシップ	インターンシップとひとことで言っても多種多様なタイプがあり、それぞれに期待できる効果も異なる。インターンシップは大学に在学しながら社会人としての体験を企業の内側から体感ができる貴重な機会なので、積極的な参加を期待したい。本授業では本学でのインターンシップ参加の窓口であるキャリアセンターの職員が先輩たちの事例や参加する際の注意点などについて解説する。【キーワード：インターンシップ】

- 9 思考のメカニズム 自分自身の行動を計画し実践していくための基礎は、物事を正しくとらえ、正しく考え、正しく判断していくことである。ここでは、そのための基礎的技術について学ぶ。特に、思考のメカニズム、ロジカルシンキング、クリティカルシンキングを重点的に取り上げて学ぶ。【キーワード：ロジカルシンキング、クリティカルシンキング、フェルミ推定】
- 10 意思決定と認知バイアス いま身の回りで起きていることからのうち、皆さんのキャリアデザインに深くかかわってくる概念について基礎的な理解を深める。具体的には「ものごとの捉え方（認知）」、「自分が自由にできる裁量権（選択）」、「決めることに関するところの動き（意思決定）」について学んでいく。【キーワード：二重過程理論、認知バイアス】
- 11 仕事と幸福 キャリアデザインの究極的な目的は、キャリア形成を通じた幸福の追求である。ここでは様々な幸福論について触れたのちに、セリグマンの PERMA モデルを取り上げて、幸福（ウェルビーイング）になるための要素についてキャリアデザインの観点から考えていく。【キーワード：ウェルビーイング、PERMA モデル、自己効力、幸福経営】
- 12 チャンスを広げるための行動様式の改革 チャンスを広げられる人は自分の前にある偶然の出会いをチャンスとして捉えて行動できるかどうかにかかっている。自分でチャンスを広げていくことができる行動様式について 4S トランジション理論、ブランドハプンスタンス理論から学んでいく。【キーワード：4S トランジション理論、ブランドハプンスタンス理論、セレンディピティ】
- 13 学生生活と就職の準備 本学の学生は、卒業後の進路として 9 割が就職をする。就職がキャリアのゴールではないが、多くの学生が直面する就職活動がいつごろから始まり、どのような準備が必要なのかについて、卒業生のデータも踏まえながらキャリアセンターの職員が解説する。【キーワード：自己理解、就職活動】
- 14 学生時代の過ごし方 春学期が終わろうとしているいま、これから卒業までの 3 年半をどう過ごすかを考える。卒業までに成し遂げたいこと、それを成し遂げるためにどのような活動が必要かを具体的に議論する。そして、「明日から取り組むこと」をみなさん自身で決め、グループ内で共有する。【キーワード：過ごし方、付き合い方、自己戦略】

【テキスト（教科書）】

特に定めません。

【参考書】

授業内において、必要に応じて副読本、参考文献等を紹介しします。

【成績評価の方法と基準】

毎回の課題レポートの記述内容の評価を点数化し、それらを合計した総合点で評価（100 %）します。記述内容の評価においては、記述内容のオリジナリティ、論理構成、表現法を重点に評価します。単位取得には特段の事情がない限り課題レポートの期限内提出率と教室授業の出席率がともに 70 % 以上であることが必要です。また、課題レポートの総得点が満点の 60 % 以上であることが必要です。やむを得ない事情で期限内のレポートの提出が難しい場合には、早めに担当教員（大八木智一）と相談してください。

【学生の意見等からの気づき】

本年度より課題レポートの記述内容において、みなさんの「オリジナリティのある考え方」に対する評価を重点評価項目に加えます。世間一般の考え、どこかの本やネットに書いてあったような考えでなく、みなさん自身が自分の頭でよく練った「考え」を評価します。一般的に「正しい」考えより、みなさんが「考え抜いた」内容を記述内容には期待します。

【学生が準備すべき機器他】

当日示す授業資料は、「学習支援システム」にもアップするので、各自パソコン、タブレット等を教室に持参することが可能です。同じ授業資料は授業中においても教室内で投影します。また、授業内容は一定期間学習支援システム上で公開する（課題を除く資料のみ）ので、復習等にも活用してください。学習用の使用機材は、できればスマートフォンではなく、PC やタブレットを用意されることをお勧めします。

【その他の重要事項】

【授業形態の変更の可能性】 新型コロナ感染症の拡散状況によって、授業方法が春学期の途中でも変更になる場合があります。その場合は、随時ご連絡します。

【質問の受付】 授業内容等に関する質問、問い合わせにはメールで受け付けます。必要に応じて対面での対応も可能です。コンタクト先（担当教員）については授業開始後に（初回授業において）お知らせします。

【受講制限】 本授業の第 1 回目授業開始前日時点において仮登録者が教室定員を上回った場合はハイフレックス授業になります（クラスを 2 つに分けて、1 回おきに教室授業とオンライン授業を交互に受講）。なお、仮登録者が教室定員の 2 倍を超えた場合は抽選によって受講者を決定します。この場合、第 1 回目授業の前日までに履修の仮登録をしていなかった学生は抽選の対象とならないため、受講できません。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

This class provides you with the long-term career design concept Lea you need to live your life and basic knowledge you need to work in society.

【Learning Objectives】

The goal of this class is to find the problem ,to think about the solution ,and to have the ability to continue to perform.

【Leaning activities outside of class】

In addition to the lecture ,this class requires at least four hours to prepare ,review and create assignment report.

【Grading Criteria/Policy】

In the evaluation of the results, the content of each assignment report is evaluated as a total score. The on-time submission rate of the assignment report must be 70% or higher to earn credits. And also ,the total score of the assignment report must be 60% or more of the perfect score.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習・課題レポートの作成等に要する時間は、講義時間以外に 4 時間以上を標準とします。より深い理解のために有益な資料、参考図書、作業等は授業内で示します。授業後にそれらに目を通したり、作業したり、インターネットや文献等の活用による自発的学習によって自分自身の知識やスキルの向上を目指すことを期待します。

CAR100LG

キャリアデザイン入門

高橋 実

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 2/Mon.2 | キャンパス：市ヶ谷

備考（履修条件等）：

その他属性：〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、①大学での過ごし方と②社会で働くということについて、一緒に考えることで、皆さんが学生生活を有意義に過ごせるよう支援していきたいと思えます。

授業の中では、より長期的な人生を歩む上で必要となる考え方や、社会や働くということについての基本的な知見を提供します。これらを通じて、自分で考えて行動できるような姿勢を培うことが、この授業の目的です。

【到達目標】

自分の頭で考え、率先して行動できるようになることを目標とします。受験を含む高校まででは、課題が与えられ、正解を出来るだけ早く見つける能力が求められてきました。しかし社会では、自ら問題を発見し、解決に向けて行動していく必要があります。また、誰かが正解を与えてくれるわけではありません。正解も一つではないでしょう。今日の正解が明日も正しいとは限りません。

そのような中では、自ら課題をみつけ、解決策を考え、そして実行し続けていく姿勢が求められます。大学の4年間では、考えながら行動し続ける姿勢、言い換えれば PDS (Plan, Do, See) サイクルを回して行ける基本的な力を身につけてほしいと思えます。

最初は小さな一歩で構いません。半年の間に、授業をきっかけにして、何か行動してみることを目指しましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

環境の動向を考慮しながら参加型の授業スタイルをできる限り取り入れ、教員や学生同士のコミュニケーション機会を設けます（グループワーク、対話、レポートのフィードバックなど）。

なお、初回の授業（第1回）は、オンデマンド授業（コンテンツ動画配信）で行います（登録者に学習支援システムを通じて案内します）。対面型の授業以外に、学習支援システムやメールを積極的に活用しますので、受講期間は必ずチェックを行うようにしてください。

■課題等の提出

・学習支援システムを利用して行います。
・授業後のリアクションペーパーの提出、最終レポート、その他講師が授業で指定した課題等の提出となります。

■フィードバック方法

・提出された課題については、学習支援システムを通じてフィードバックを行います。

・講師とのメールも活用してフィードバックを行います。

・提出された課題を、授業内で取り上げる場合があります。

■特別課題について

・授業計画以外に、本講義の目的に沿ってオンデマンド教材にて特別授業を行う場合があります。

■受講ルール

本授業の大きなテーマは「自立（自律）」です。そのため、授業内では「社会のルール」を適用します。（授業内で詳しく説明します。特に第1回のオリエンテーションは必ず視聴してください）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	【オンデマンド授業（オンラインによる動画視聴）】多くの企業の人事を歴任してきた現役の人事バラレルワーカー（複業者）として、講師自身のキャリアケースをお話しします。また、授業の内容、進め方、受講のルールなど、この授業を通して何を学ぶべきなのかをお伝えします。併せて授業のルールなどの注意事項についても説明します。
2	大学での学び	「大学でもっと多くのことを学んでおけば良かった」。多くの大人がそう考えています。大学は、キャリアの始まり。学び方も姿勢も大きく変えなければいけません。では、大学という場所では何を学び、何を活かしていくべきなのか。現役社会人の立場から皆さんに伝え、これからの大学での学び方を考えます。
3	社会に出るというトランジション	大学を卒業すると、多くの皆さんが社会に出ていきます。このステップは、人生でも最大級のトランジション（変わり目）になります。そこで何が変わるのかを学び、自分自身のキャリアで何を考え、行動していくかを解説します。
4	働くことの意味	「働く」意味の一つは「労働に対する対価（＝給料）を得る」というものですが、果たしてそれだけでいいのでしょうか？ では「働きがい」とはどういうことでしょうか？ 働くことは本当に辛いことなのでしょうか？ 大人でも悩むこのテーマを考えます。
5	外部環境と個人のキャリア	世界はコロナ禍や不安定な国際情勢など、大きく変化してきています。また、これからの日本は世界でも未曾有の少子化による労働人口減少に直面します。未来の日本でこれからどんなことが起こるのか？ そして、その中でどのように生きていくべきなのか。皆さんを取り巻く社会の外部環境について解説します。
6	働き方と多様性	女性は勿論、外国人、高齢者、障害者、LGBTQ など、働く人も多様になってきており、これからの時代は働き方そのものが大きく変わります。企業の人事部長経験や現役の人事バラレルワーカー（複業者）の視点から、これからの社会の変わりゆく多様性の解説と、「多様性とは何か」を考えてもらいます。
7	なぜ企業は採用をするのか	なぜ企業は「採用」を行うのでしょうか？ 現役の人事だからこそ話せる、企業がなぜ採用をするのか、どんなことを考えて採用を行っているのかを赤裸々にお話しします。働く場所となる企業の考えを理解することで、自分のこれからのキャリアを考えてもらいます。

- 8 組織におけるコミュニケーション
組織に属すると、周囲の人と必ずコミュニケーションを行っていかねばなりません。組織の目的と個人の目的は時としてずれてしまうこともあります。社会に出ると、好きでない人と付き合いねばならないことも多くあります。組織ではどのようにコミュニケーションをとっていくべきなのか。組織におけるコミュニケーションを解説しつつ、自分自身のコミュニケーションの課題について考えてもらいます。
- 9 キャリアモデルケーススタディ
【オンデマンド授業】現役で働いている社会人に、自身のキャリアと、キャリアを培ってきた想いなどをお話いただけます。そして、そのキャリアモデルをもとに、自分自身のこれからのキャリアを考えます。
- 10 「評価される」とはどういうことか
社会人になり、経験を重ね、スキルやノウハウがつくと、立場が変わり、社会的責任が大きくなり、お給料も上がっていきます。そのキャリアプロセスでは常に「評価される」ということが行われます。「評価される」ということはどういうことなのかを解説を交えながら考えてもらいます。
- 11 インターンシップ（キャリアセンター担当）
インターンシップとひとことで言っても多様なタイプがあり、それぞれに期待できる効果も異なります。インターンシップは大学に在学しながら社会人の体験ができる貴重な機会。本授業では大学キャリアセンター職員が先輩の事例や参加の注意点などを解説します。
- 12 ポストコロナのオンライン時代に向けてやるべきこと
コロナ禍で、世界中の環境が激変しました。それに伴いテクノロジーや働き方の変化は大きく進むことになりました。個人の自由度や選択肢は高まっていますが、求められるものが高度化して厳しい時代に入ります。ポストコロナ時代の未来をみなさんが幸せに生きていくためにやるべきことを解説し、自分自身のこれからのキャリアについて考えます。
- 13 学生生活と就職の準備（キャリアセンター担当）
就職はキャリアのゴールではないですが、大学生活に重なる就職活動とはどのようなものか、そのために準備しておくことを大学キャリアセンター職員が解説します。
- 14 学生生活の過ごし方
春学期が終わろうとしているいま、これから卒業までの3年半をどう過ごすかを考える。授業の総括や振り返りを通しながら、卒業までに成し遂げたいこと、それを成し遂げるためにどのような活動が必要かを考え、自分自身の主体的な行動計画を企画していきます。
(授業内容は変わることがあります)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。毎回授業後に「リアクションペーパー」の提出課題があります。

また、復習のために、本授業の受講者は必ず「本授業専用のキャリアマイノート」を準備し、毎回の授業の内容および感じたことを記載してもらいます。

14回の授業のほか、オンデマンド教材による特別授業もあります（キャリアデザイン入門の他の講師とのコラボレーション特別授業など）。

なお、上記のほか、授業内で案内した書籍や、自主的なレポートは積極的に受け付けます（自主的な取り組みは加点評価を行います。積極的に取り組んでみてください）

【テキスト（教科書）】

特に定めません。

授業で使用した資料等は、授業後に配布します。

【参考書】

授業内で、参考になる書籍を適宜案内します。積極的に読んでください。

【成績評価の方法と基準】

毎回授業後に提出してもらうリアクションペーパーが70%。期末レポートが30%の割合で評価します。また、平常点も加味します。本授業は、授業の内容を通して「自らのキャリアと向き合う」ことを求めます。単に授業を聞くだけでなく、以下の点を授業後のリアクションペーパー、最終課題等では常に求めます。

①考察をする

「考察」とは「物事を明らかにするために調べて考えること」です。授業で伝えた内容をもとに、さらに自分自身で「考察」してもらうことが必要です。

②自分自身に向き合う

本授業は「自らのキャリアを考える」ことを主眼に置いています。授業内容をもとに必ず自分自身に照らした考察を求めます。

③自身の行動に落とし込む

本授業で伝えた知見は、それをもとに自身の行動が変わることが必要です。具体的な行動目標を立てて実行することを求めます。

また、提出を求める課題以外でも、授業で案内した書籍を読んで自分自身を振り返ったり、授業内容をもとに「行動した」レポートなどは、随時任意で提出することができます。その場合、提出内容を精査した上で、加点評価として加味します。積極的に提出してください。

【学生の意見等からの気づき】

「自分自身のキャリアを真剣に考えたい」人のみが受講してください。自分自身と向き合うためには、時間と熟慮が必要で、かなり厄介で面倒なプロセスです。本講義では、徹底的に自分自身と向き合ってもらうため、積極的な受講意識が必要になります（決して楽ではありません）。

本気で自身のキャリアを考えたい人には、将来社会人になってからも活用できる知識とノウハウが身に着くはずです。

【学生が準備すべき機器他】

本授業専用「キャリアマイノート」を必ず事前準備して、毎回の授業に臨んでください。授業内で学んだこと、そして感じたことを積極的にキャリアマイノートに記載してください。そのための筆記用具は必ず持参してください。

授業内では、学習支援システムや相互チャットツールも活用します。パソコンも持参してください。

また、第1回目の講義のほか、数回オンラインを活用した講義を行います。また、毎回の講義の情報や課題提出、コミュニケーションのために学習支援システムやメール等を積極的に活用します。そのため、パソコンおよびインターネット接続が必須になります。受講者の皆さんは準備し、随時チェックを行ってください。

【その他の重要事項】

【その他の重要事項 / Others】

■講師プロフィール

新卒でJCB入社、その後NTT、トヨタグループ企業で新規事業企画、営業などを歴任。その後40歳にして人事に転身。トヨタファイナンス、創業100年企業、IT企業のHDE（現HENNGE）で人事部長を歴任。これまで2,000人を超える新卒学生と面接を行ってきている。

2018年から現職。「マイクロ人事部長」として、バラレルワーク（複業）を行って複数社の企業の組織改革や人事に携わっている。現職の人事としてリアリティのあるキャリアデザイン講義となります。

https://www.dodadsj.com/content/180403_takahashi/

<https://bizhint.jp/report/398484>

■受講制限について

本授業の第 1 回目授業開始前日時点において仮登録者が教室定員を上回った場合はハイフレックス授業になります（クラスを 2 つに分けて、1 回おきに教室授業とオンライン授業を交互に受講）。なお、仮登録者が教室定員の 2 倍を超えた場合は抽選によって受講者を決定します。この場合、第 1 回目授業の前日までに履修の仮登録をしていなかった学生は抽選の対象とならないため、受講できません。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this lesson, we think about your university life and work in society together.

I support you can spend great time in your university life.

In this class, I provide the basic knowledge on the concept necessary for your “long-term” life and working in society.

【Learning Objectives】

Through this opportunity, the purpose of this lesson is to create your good attitude that you can think and act by yourself.

【Learning activities outside of classroom】

Before and after each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapters from the text. Your required study time is 2 hour for each class meeting.

And Students must prepare a "notebook of your career" in this class.

【Grading Criteria / Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

- ・ Short reports after each class meeting : 70%
- ・ Reports inTerm-end : 30%

CAR100LG

キャリアデザイン入門

大八木 智一

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 3/Wed.3 | キャンパス：市ヶ谷

備考（履修条件等）：

その他属性：〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、①大学での過ごし方、②社会で働くということについて、一緒に考えていくことで、皆さんが学生生活を有意義に過ごせるよう支援していきたいと思えます。

授業の中では、より長期的な人生を歩むうえで必要となる考え方や、社会で働くということについて基本的な知見を提供します。これらを通じて、自分で考えて自分で行動できるような姿勢を培うことが、この授業の目的です。

【到達目標】

自分の頭で考え、率先して行動できるようになることを目標とします。受験を含む高校まででは、課題が与えられ、正解をできるだけ早く見つける能力が求められてきました。しかし社会では、自ら問題を発見し、解決に向けて行動していく必要があります。また、誰かが正解を与えてくれるわけでもありません。正解も一つではないでしょう。今日の正解が明日も正しいとは限りません。

そのような中では、自ら課題をみつけ、解決策を考え、そして実行し続けていく姿勢が求められます。大学の4年間では、考えながら行動し続ける姿勢、言い換えればPDS（Plan,Do,See）サイクルを回していける基本的な力を身につけてほしいと思えます。

最初は小さな一歩でも構いません。半年の間に、授業をきっかけにして何か行動してみることを目指しましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

環境の動向を考慮しながら参加型の授業スタイルをできる限り取り入れ、教員や学生同士のコミュニケーション機会を設けます（グループワーク、対話、レポートのフィードバックなど）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション 【初回はオンデマンド授業になります】	本科目の授業趣旨、授業の進め方、求める参加態度、カリキュラム等について概要と授業を受講する意義について説明する。また学生生活を送るにあたって必要な支援を受けられる学内の機関について紹介する【キーワード：キャリアデザイン、大学生としての学生生活を始めよう！、困ったときのコンタクト先】
2	大学での学び	大学とはどのような場なのか、何のために大学で学ぶのか、大学の付加価値について考える。また、大学生時代にしかできない法政大学という場を有効に活用する学び方や、大学生として生活、学修していく際の基礎知識について学ぶ。【キーワード：自ら学ぶ、大学の活用】

3	激変する社会環境と直面する課題	現代は世界的に社会環境が激変している時代である。このような時代において社会が直面している課題をSDGsの観点から読み起こし、みなさん自身がこれらの諸課題に対してどのような関与、貢献ができそうかについて考える。併せて、わが国の将来に向けて重大な課題となっている少子高齢化の問題についても考えていく。 【キーワード：SDGs、少子高齢化、パンデミック】
4	働き方と多様性	これからの変化の激しい社会において自分を生かしていく働き方について考えていく。ダイバーシティに関する基本的考え方に加え、雇用形態の変化やパラレルキャリア、短時間労働化の可能性、テレワークなど、新しい働き方のあり方について考える。 【キーワード：ダイバーシティ】
5	働くことの意味	働くとはどういうことなのか？これまでの主な労働論や労働観にも触れながら、これからの時代の「働く」を考えていく。特に、働く目標と目的、動機、働くことを通じての自己実現と幸福の追求、提供価値の対価としての報酬、これからの働き方などの側面から考えていく。【キーワード：労働観、働く目的】
6	結婚、家族、ジェンダーを取り巻く諸問題	社会生活を営んでいくための基礎的な単位であるとともに生活の基盤ともなる家族、および、その周辺で密接に関連している結婚やジェンダーに関する諸問題について考察する。併せて共働き問題、子育て問題、家族関係の変容についても触れていく。【キーワード：結婚、家族、ジェンダー】
7	グローバル化社会と異文化理解	これからの世の中はグローバルな活動が今まで以上に当たり前になってくる。そのような社会において活動していくためには各自がグローバル人材として成長していくことが必要である。そのためにはどのような資質を備えていくべきなのかについて学ぶ。【キーワード：グローバル化、カルチャーマップ】
8	インターンシップ	インターンシップとひとことで言っても多種多様なタイプがあり、それぞれに期待できる効果も異なる。インターンシップは大学に在学しながら社会人としての体験を企業の内側から体感ができる貴重な機会なので、積極的な参加を期待したい。本授業では本学でのインターンシップ参加の窓口であるキャリアセンターの職員が先輩たちの事例や参加する際の注意点などについて解説する。【キーワード：インターンシップ】

- 9 思考のメカニズム 自分自身の行動を計画し実践していくための基礎は、物事を正しくとらえ、正しく考え、正しく判断していくことである。ここでは、そのための基礎的技術について学ぶ。特に、思考のメカニズム、ロジカルシンキング、クリティカルシンキングを重点的に取り上げて学ぶ。【キーワード：ロジカルシンキング、クリティカルシンキング、フェルミ推定】
- 10 意思決定と認知バイアス いま身の回りで起きていることからのうち、皆さんのキャリアデザインに深くかかわってくる概念について基礎的な理解を深める。具体的には「ものごとの捉え方（認知）」、「自分が自由にできる裁量権（選択）」、「決めることに関するところの動き（意思決定）」について学んでいく。【キーワード：二重過程理論、認知バイアス】
- 11 仕事と幸福 キャリアデザインの究極的な目的は、キャリア形成を通じた幸福の追求である。ここでは様々な幸福論について触れたのちに、セリグマンの PERMA モデルを取り上げて、幸福（ウェルビーイング）になるための要素についてキャリアデザインの観点から考えていく。【キーワード：ウェルビーイング、PERMA モデル、自己効力、幸福経営】
- 12 チャンスを広げるための行動様式の改革 チャンスを広げられる人は自分の前にある偶然の出会いをチャンスとして捉えて行動できるかどうかにかかっている。自分でチャンスを広げていくことができる行動様式について 4S トランジション理論、ブランドハプンスタンス理論から学んでいく。【キーワード：4S トランジション理論、ブランドハプンスタンス理論、セレンディピティ】
- 13 学生生活と就職の準備 本学の学生は、卒業後の進路として 9 割が就職をする。就職がキャリアのゴールではないが、多くの学生が直面する就職活動がいつごろから始まり、どのような準備が必要なのかについて、卒業生のデータも踏まえながらキャリアセンターの職員が解説する。【キーワード：自己理解、就職活動】
- 14 学生時代の過ごし方 春学期が終わろうとしているいま、これから卒業までの 3 年半をどう過ごすかを考える。卒業までに成し遂げたいこと、それを成し遂げるためにどのような活動が必要かを具体的に議論する。そして、「明日から取り組むこと」をみなさん自身で決め、グループ内で共有する。【キーワード：過ごし方、付き合い方、自己戦略】

【テキスト（教科書）】

特に定めません。

【参考書】

授業内において、必要に応じて副読本、参考文献等を紹介しします。

【成績評価の方法と基準】

毎回の課題レポートの記述内容の評価を点数化し、それらを合計した総合点で評価（100%）します。記述内容の評価においては、記述内容のオリジナリティ、論理構成、表現法を重点に評価します。単位取得には特段の事情がない限り課題レポートの期限内提出率と教室授業の出席率がともに 70% 以上であることが必要です。また、課題レポートの総得点が満点の 60% 以上であることが必要です。やむを得ない事情で期限内のレポートの提出が難しい場合には、早めに担当教員（大八木智一）と相談してください。

【学生の意見等からの気づき】

本年度より課題レポートの記述内容において、みなさんの「オリジナリティのある考え方」に対する評価を重点評価項目に加えます。世間一般の考え、どこかの本やネットに書いてあったような考えでなく、みなさん自身が自分の頭でよく練った「考え」を評価します。一般的に「正しい」考えより、みなさんが「考え抜いた」内容を記述内容には期待します。

【学生が準備すべき機器他】

当日示す授業資料は、「学習支援システム」にもアップするので、各自パソコン、タブレット等を教室に持参することが可能です。同じ授業資料は授業中においても教室内で投影します。また、授業内容は一定期間学習支援システム上で公開する（課題を除く資料のみ）ので、復習等にも活用してください。学習用の使用機材は、できればスマートフォンではなく、PC やタブレットを用意されることをお勧めします。

【その他の重要事項】

【授業形態の変更の可能性】 新型コロナ感染症の拡散状況によって、授業方法が春学期の途中でも変更になる場合があります。その場合は、随時ご連絡します。

【質問の受付】 授業内容等に関する質問、問い合わせにはメールで受け付けます。必要に応じて対面での対応も可能です。コンタクト先（担当教員）については授業開始後に（初回授業において）お知らせします。

【受講制限】 本授業の第 1 回目授業開始前日時点において仮登録者が教室定員を上回った場合はハイフレックス授業になります（クラスを 2 つに分けて、1 回おきに教室授業とオンライン授業を交互に受講）。なお、仮登録者が教室定員の 2 倍を超えた場合は抽選によって受講者を決定します。この場合、第 1 回目授業の前日までに履修の仮登録をしていなかった学生は抽選の対象とならないため、受講できません。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

This class provides you with the long-term career design concept. You need to live your life and basic knowledge you need to work in society.

【Learning Objectives】

The goal of this class is to find the problem, to think about the solution, and to have the ability to continue to perform.

【Leaning activities outside of class】

In addition to the lecture, this class requires at least four hours to prepare, review and create assignment report.

【Grading Criteria/Policy】

In the evaluation of the results, the content of each assignment report is evaluated as a total score. The on-time submission rate of the assignment report must be 70% or higher to earn credits. And also, the total score of the assignment report must be 60% or more of the perfect score.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習・課題レポートの作成等に要する時間は、講義時間以外に 4 時間以上を標準とします。より深い理解のために有益な資料、参考図書、作業等は授業内で示します。授業後にそれらに目を通したり、作業したり、インターネットや文献等の活用による自発的学習によって自分自身の知識やスキルの向上を目指すことを期待します。

CAR100LG

キャリアデザイン入門

大八木 智一

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 4/Wed.4 | キャンパス：市ヶ谷

備考（履修条件等）：

その他属性：〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、①大学での過ごし方、②社会で働くということについて、一緒に考えていくことで、皆さんが学生生活を有意義に過ごせるよう支援していきたいと思えます。

授業の中では、より長期的な人生を歩むうえで必要となる考え方や、社会で働くということについて基本的な知見を提供します。これらを通じて、自分で考えて自分で行動できるような姿勢を培うことが、この授業の目的です。

【到達目標】

自分の頭で考え、率先して行動できるようになることを目標とします。受験を含む高校まででは、課題が与えられ、正解をできるだけ早く見つける能力が求められてきました。しかし社会では、自ら問題を発見し、解決に向けて行動していく必要があります。また、誰かが正解を与えてくれるわけでもありません。正解も一つではないでしょう。今日の正解が明日も正しいとは限りません。

そのような中では、自ら課題をみつけ、解決策を考え、そして実行し続けていく姿勢が求められます。大学の4年間では、考えながら行動し続ける姿勢、言い換えればPDS（Plan, Do, See）サイクルを回していける基本的な力を身につけてほしいと思えます。

最初は小さな一歩でも構いません。半年の間に、授業をきっかけにして何か行動してみることを目指しましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

環境の動向を考慮しながら参加型の授業スタイルをできる限り取り入れ、教員や学生同士のコミュニケーション機会を設けます（グループワーク、対話、レポートのフィードバックなど）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション 【初回はオンデマンド授業になります】	本科目の授業趣旨、授業の進め方、求める参加態度、カリキュラム等について概要と授業を受講する意義について説明する。また学生生活を送るにあたって必要な支援を受けられる学内の機関について紹介する【キーワード：キャリアデザイン、大学生としての学生生活を始めよう！、困ったときのコンタクト先】
2	大学での学び	大学とはどのような場なのか、何のために大学で学ぶのか、大学の付加価値について考える。また、大学生時代にしかできない法政大学という場を有効に活用する学び方や、大学生として生活、学修していく際の基礎知識について学ぶ。【キーワード：自ら学ぶ、大学の活用】

3	激変する社会環境と直面する課題	現代は世界的に社会環境が激変している時代である。このような時代において社会が直面している課題をSDGsの観点から読み起こし、みなさん自身がこれらの諸課題に対してどのような関与、貢献ができそうかについて考える。併せて、わが国の将来に向けて重大な課題となっている少子高齢化の問題についても考えていく。【キーワード：SDGs、少子高齢化、パンデミック】
4	働き方と多様性	これからの変化の激しい社会において自分を生かしていく働き方について考えていく。ダイバーシティーに関する基本的考え方に加え、雇用形態の変化やパラレルキャリア、短時間労働化の可能性、テレワークなど、新しい働き方のあり方について考える。【キーワード：ダイバーシティー】
5	働くことの意味	働くとはどういうことなのか？これまでの主な労働論や労働観にも触れながら、これからの時代の「働く」を考えていく。特に、働く目標と目的、動機、働くことを通じての自己実現と幸福の追求、提供価値の対価としての報酬、これからの働き方などの側面から考えていく。【キーワード：労働観、働く目的】
6	結婚、家族、ジェンダーを取り巻く諸問題	社会生活を営んでいくための基礎的な単位であるとともに生活の基盤ともなる家族、および、その周辺で密接に関連している結婚やジェンダーに関する諸問題について考察する。併せて共働き問題、子育て問題、家族関係の変容についても触れていく。【キーワード：結婚、家族、ジェンダー】
7	グローバル化社会と異文化理解	これからの世の中はグローバルな活動が今まで以上に当たり前になってくる。そのような社会において活動していくためには各自がグローバル人材として成長していくことが必要である。そのためにはどのような資質を備えていくべきなのかについて学ぶ。【キーワード：グローバル化、カルチャーマップ】
8	インターンシップ	インターンシップとひとことで言っても多種多様なタイプがあり、それぞれに期待できる効果も異なる。インターンシップは大学に在学しながら社会人としての体験を企業の内側から体感ができる貴重な機会なので、積極的な参加を期待したい。本授業では本学でのインターンシップ参加の窓口であるキャリアセンターの職員が先輩たちの事例や参加する際の注意点などについて解説する。【キーワード：インターンシップ】

- 9 思考のメカニズム 自分自身の行動を計画し実践していくための基礎は、物事を正しくとらえ、正しく考え、正しく判断していくことである。ここでは、そのための基礎的技術について学ぶ。特に、思考のメカニズム、ロジカルシンキング、クリティカルシンキングを重点的に取り上げて学ぶ。【キーワード：ロジカルシンキング、クリティカルシンキング、フェルミ推定】
- 10 意思決定と認知バイアス いま身の回りで起きていることからのうち、皆さんのキャリアデザインに深くかかわってくる概念について基礎的な理解を深める。具体的には「ものごとの捉え方（認知）」、「自分が自由にできる裁量権（選択）」、「決めることに関するところの動き（意思決定）」について学んでいく。【キーワード：二重過程理論、認知バイアス】
- 11 仕事と幸福 キャリアデザインの究極的な目的は、キャリア形成を通じた幸福の追求である。ここでは様々な幸福論について触れたのちに、セリグマンの PERMA モデルを取り上げて、幸福（ウェルビーイング）になるための要素についてキャリアデザインの観点から考えていく。【キーワード：ウェルビーイング、PERMA モデル、自己効力、幸福経営】
- 12 チャンスを広げるための行動様式の改革 チャンスを広げられる人は自分の前にある偶然の出会いをチャンスとして捉えて行動できるかどうかにかかっている。自分でチャンスを広げていくことができる行動様式について 4S トランジション理論、ブランドハプンスタンス理論から学んでいく。【キーワード：4S トランジション理論、ブランドハプンスタンス理論、セレンディピティ】
- 13 学生生活と就職の準備 本学の学生は、卒業後の進路として 9 割が就職をする。就職がキャリアのゴールではないが、多くの学生が直面する就職活動がいつごろから始まり、どのような準備が必要なのかについて、卒業生のデータも踏まえながらキャリアセンターの職員が解説する。【キーワード：自己理解、就職活動】
- 14 学生時代の過ごし方 春学期が終わろうとしているいま、これから卒業までの 3 年半をどう過ごすかを考える。卒業までに成し遂げたいこと、それを成し遂げるためにどのような活動が必要かを具体的に議論する。そして、「明日から取り組むこと」をみなさん自身で決め、グループ内で共有する。【キーワード：過ごし方、付き合い方、自己戦略】

【テキスト（教科書）】

特に定めません。

【参考書】

授業内において、必要に応じて副読本、参考文献等を紹介しします。

【成績評価の方法と基準】

毎回の課題レポートの記述内容の評価を点数化し、それらを合計した総合点で評価（100%）します。記述内容の評価においては、記述内容のオリジナリティ、論理構成、表現法を重点に評価します。単位取得には特段の事情がない限り課題レポートの期限内提出率と教室授業の出席率がともに 70% 以上であることが必要です。また、課題レポートの総得点が満点の 60% 以上であることが必要です。やむを得ない事情で期限内のレポートの提出が難しい場合には、早めに担当教員（大八木智一）と相談してください。

【学生の意見等からの気づき】

本年度より課題レポートの記述内容において、みなさんの「オリジナリティのある考え方」に対する評価を重点評価項目に加えます。世間一般の考え、どこかの本やネットに書いてあったような考えでなく、みなさん自身が自分の頭でよく練った「考え」を評価します。一般的に「正しい」考えより、みなさんが「考え抜いた」内容を記述内容には期待します。

【学生が準備すべき機器他】

当日示す授業資料は、「学習支援システム」にもアップするので、各自パソコン、タブレット等を教室に持参することが可能です。同じ授業資料は授業中においても教室内で投影します。また、授業内容は一定期間学習支援システム上で公開する（課題を除く資料のみ）ので、復習等にも活用してください。学習用の使用機材は、できればスマートフォンではなく、PC やタブレットを用意されることをお勧めします。

【その他の重要事項】

【授業形態の変更の可能性】 新型コロナ感染症の拡散状況によって、授業方法が春学期の途中でも変更になる場合があります。その場合は、随時ご連絡します。

【質問の受付】 授業内容等に関する質問、問い合わせにはメールで受け付けます。必要に応じて対面での対応も可能です。コンタクト先（担当教員）については授業開始後に（初回授業において）お知らせします。

【受講制限】 本授業の第 1 回目授業開始前日時点において仮登録者が教室定員を上回った場合はハイフレックス授業になります（クラスを 2 つに分けて、1 回おきに教室授業とオンライン授業を交互に受講）。なお、仮登録者が教室定員の 2 倍を超えた場合は抽選によって受講者を決定します。この場合、第 1 回目授業の前日までに履修の仮登録をしていなかった学生は抽選の対象とならないため、受講できません。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

This class provides you with the long-term career design concept. You need to live your life and basic knowledge you need to work in society.

【Learning Objectives】

The goal of this class is to find the problem, to think about the solution, and to have the ability to continue to perform.

【Leaning activities outside of class】

In addition to the lecture, this class requires at least four hours to prepare, review and create assignment report.

【Grading Criteria/Policy】

In the evaluation of the results, the content of each assignment report is evaluated as a total score. The on-time submission rate of the assignment report must be 70% or higher to earn credits. And also, the total score of the assignment report must be 60% or more of the perfect score.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習・課題レポートの作成等に要する時間は、講義時間以外に 4 時間以上を標準とします。より深い理解のために有益な資料、参考図書、作業等は授業内で示します。授業後にそれらに目を通したり、作業したり、インターネットや文献等の活用による自発的学習によって自分自身の知識やスキルの向上を目指すことを期待します。

CAR100LG

キャリアデザイン入門

宮木 あづさ

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 4/Fri.4 | キャンパス：市ヶ谷

備考（履修条件等）：

その他属性：〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、①大学での過ごし方と②社会で働くということについて、一緒に考えることで、皆さんが学生生活を有意義に過ごせるよう支援していきたいと思えます。

授業の中では、より長期的な人生を歩む上で必要となる考え方や、社会や働くということについての基本的な知見を提供します。これらを通じて、自分で考えて行動できるような姿勢を培うことが、この授業の目的です。

【到達目標】

自分の頭で考え、率先して行動できるようになることを目標とします。受験を含む高校まででは、課題が与えられ、正解を出来るだけ早く見つける能力が求められてきました。しかし社会では、自ら問題を発見し、解決に向けて行動していく必要があります。また、誰かが正解を与えてくれるわけではありません。正解も一つではないでしょう。今日の正解が明日も正しいとは限りません。

そのような中では、自ら課題をみつけ、解決策を考え、そして実行し続けていく姿勢が求められます。大学の4年間では、考えながら行動し続ける姿勢、言い換えれば PDS (Plan,Do,See) サイクルを回して行ける基本的な力を身につけてほしいと思えます。

最初は小さな一歩で構いません。半年の間に、授業をきっかけにして、何か行動してみることを目指しましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

環境の動向を考慮しながら参加型の授業スタイルをできる限り取り入れ、教員や学生同士のコミュニケーション機会を設けます（グループワーク、対話、レポートのフィードバックなど）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	本科目の授業主旨、授業計画、進め方、成績評価方法、求められる参加態度等について概要を説明します。併せて、授業受講に必要なシステムの活用法、学生相談室やキャリアセンター等の窓口の利用法、学生生活上の注意事項などに関する情報の提供を行います。
第 2 回	キャリア・キャリアデザインに関する諸理論	キャリアとは？ キャリアデザインとは？ 語源や定義、さまざまな捉え方を解説します。さらにキャリアデザインを学ぶ意義についても考えていきます。
第 3 回	大学での学び	大学とはどういう場なのか、何のために大学で学ぶのか、大学の付加価値等について考えていきます。また、大学での学び方についても触れていきます。

第 4 回	自己理解と自分を伝える技術	アセスメント活用し自分の特徴についての理解（自己理解）を深めていきます。自分の意見や感情を伝える「アサーション」を学び、今後実践できるようになること。落ち込んでもしなやかに立ち直る力を理解し養っていきます。
第 5 回	学生と社会人	社会人に求められていることとは？ 学生とは何が異なるのだろうか。それぞれの役割を比較し、社会人基礎力やライフスキルなどを理解することで、現在の自分の強みや将来にむけて強化すべき力を考えていきます。
第 6 回	学生生活と就職の準備	本学の学生は、卒業後の進路として 9 割が就職をします。就職がキャリアのゴールではないが、多くの学生が直面する就職活動がいつ頃から始まり、どのような準備が必要かを卒業生のデータを踏まえながらキャリアセンター職員が解説します。
第 7 回	働き方と多様性	変化の激しい社会において自分らしく働くには、多様な選択があります。労働の領域におけるダイバーシティー（多様性）、多様な雇用形態、パラレルキャリアなどについて考えていきます。
第 8 回	プロフェッショナルのキャリア	好きや得意を仕事にするのは理想的なキャリア選択のひとつです。専門領域でプロフェッショナルとして活躍するには、自身で目標を設定し、掲げた目標やビジョンを実現するための努力、行動、セルフマネジメントが必要です。プロフェッショナルとは？ を一緒に考えていきます。
第 9 回	インターンシップ	インターンシップとひとことで言っても多様なタイプがあり、それぞれに期待できる効果も異なります。インターンシップは大学に在学しながら社会人としての体験を企業の内側から体感ができる貴重な機会です。本授業では 窓口であるキャリアセンター職員が過去の先輩の事例や参加する際の注意点を解説します。
第 10 回	働くことの意味	働く意味・働きがいとは何かを考えていきます。自分の周りで仕事をしている人（親、兄弟、親戚など）にインタビューを実施して、その結果を持ち寄り共有します。身近な大人は、何のために働いているのかを議論し発表します。またアルバイトは就業経験としてどの程度の意味があるのかを考えてみます。
第 11 回	パーパスが企業と社員に与える影響とは	目的・意図を表す「パーパス」。ビジネスシーンでは「何のために組織や企業が存在するのか」「社員は何のために働いているのか」という「存在意義」を表す概念として使われています。こうしたパーパス＝存在意義を重視する経営が国内外で注目を集めています。パーパスが求められる背景・導入プロセス。パーパスが企業ブランドや社員に与える影響について解説をしていきます。

- 第12回 やる気とモチベーション
 これまでの自分を振り返り、自身の価値観の形成、やる気に影響を与えた出来事や人との出会いなど、モチベーションの源泉を見つけていきます。モチベーションを高め、維持する有効な考え方や方法も学んでいきます。
- 第13回 グローバル人材とは
 グローバル化社会で活躍する人材になるには、英語をはじめとした外国語の能力は確かに大切です。さらに異文化を理解する能力などが求められます。「グローバル人材」「グローバル化社会」について議論します。
- 第14回 学生生活の過ごし方
 春学期が終わろうとしているいま、これから卒業までの3年半をどう過ごすかを考えていきます。卒業までに成し遂げたいことと、それを成し遂げるためにどのような活動が必要かを具体的に書き出し「明日から取り組むこと」を決め、グループ内で共有していきます。私たちが活用できるブランドハプスタンス理論・意思決定理論などを紹介していきます。またどのような人材として成長していくのが望ましいかについて考えていきます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
 授業において事前課題を実施していただく回があります。事前課題は、授業内及び学習支援システムにてお知らせします。

【テキスト（教科書）】

特に定めない。学習支援システムにて資料を共有します。必要に応じてダウンロードやプリントアウトをして、学習に役立ててください。

【参考書】

授業の中で適宜指示をします。

【成績評価の方法と基準】

- ・毎回のリアクションペーパー提出＝出席＜35％＞、授業への貢献＝発言・発表・質問・課題レポートへの取り組み＜25％＞ 期末レポート＜40％＞、
- ・リアクションペーパーの提出をもって出席確認をします。各授業テーマについての理解度や新たな気づきなど、記述内容・論理構成・文字数・締切日までの提出等評価します。
- ・授業への貢献は、発言・発表・質問・レポートへの積極的な取り組みや記述内容・姿勢等評価をいたします。

【学生の意見等からの気づき】

- ・昨年度の授業は、学生同士のグループディスカッション・学生と担当教員との対話・社会で活躍するゲストスピーカーの講演と質疑応答など、双方向のコミュニケーションを活発に行ってきました。
- ・学生の意見を踏まえて、今年度も、学生と教員・学生同士・学生と先輩社会人との相互コミュニケーションを活発におこなう機会を引き続き重視します。
- ・対面授業でも複数人数によるグループディスカッションを、実施したかったという意見がありました。対面では、履修人数・環境・状況等を考慮し、少人数グループの意見交換の実施。オンライン授業では、ブレイクアウトルームを活用した複数人数によるディスカッションを適宜実施する予定です。

【学生が準備すべき機器他】

- ・オンライン授業用の通信端末機器（パソコンの使用を推奨します）
 - ・筆記用具
 - ・本授業用の専用ノート（デジタルも可）
 - ・課題・リアクションペーパーの提出は「学習支援システム」を通じて行う。
- ※他に必要なものがあれば、授業の中で適宜指示をします。

【その他の重要事項】

【受講制限】 本授業の第1回目授業開始前日時点において仮登録者が教室定員を上回った場合はハイフレックス授業になります（クラスを2つに分けて、1回おきに教室授業とオンライン授業を交互に受講）。なお、仮登録者が教室定員の2倍を超えた場合は抽選によって受講者を決定します。この場合、第1回目授業の前日までに履修の仮登録をしていなかった学生は抽選の対象とならないため、受講できません。

●各テーマの授業実施日や形態が変更になる可能性があります。各回の授業テーマや形態の詳細は、逐次「学習支援システム」よりお知らせします。

●課題・リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

●担当教員は、コンサルティングファーム、IT・メーカー企業にて約20年以上にわたる人事部門での実務経験があります。現在はメーカーに勤務しています。

●企業や大学等で、社員や学生のキャリアカウンセリングを実施し、様々な個別相談にもつてきました。相談件数は数千件に及びます。フリーランスのキャリアコンサルタントとしても仕事を請け負っています。

●授業では、これまでの私自身の経験・ネットワークや企業・組織の形態なども共有し、社会に出ていく準備期間にあたる大学時代でのキャリアデザインの重要性などを伝えていきます。

【Outline (in English)】

■ Course outline ■

This course introduces the concepts necessary for a long-term life, and basic knowledge of society and working. Students are required to think about (1) how to spend at university and (2) working in society. It also enhances the skills needed to spend campus life meaningfully.

■ Learning Objectives ■

The aim of this course is to cultivate attitudes that you can think and act by yourself.

■ Learning activities outside of classroom ■

Before/after each class meeting, students will be expected to spend approx. four hours for each class meeting.

■ Grading Criteria /Policy ■

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Short report: 35% Term-end examination: 40% and In-class contribution: 25%.

CAR100LG

キャリアデザイン入門

宮木 あづさ

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 5/Fri.5 | キャンパス：市ヶ谷

備考（履修条件等）：

その他属性：〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、①大学での過ごし方と②社会で働くということについて、一緒に考えることで、皆さんが学生生活を有意義に過ごせるよう支援していきたいと思えます。

授業の中では、より長期的な人生を歩む上で必要となる考え方や、社会や働くということについての基本的な知見を提供します。これらを通じて、自分で考えて行動できるような姿勢を培うことが、この授業の目的です。

【到達目標】

自分の頭で考え、率先して行動できるようになることを目標とします。受験を含む高校まででは、課題が与えられ、正解を出来るだけ早く見つける能力が求められてきました。しかし社会では、自ら問題を発見し、解決に向けて行動していく必要があります。また、誰かが正解を与えてくれるわけではありません。正解も一つではないでしょう。今日の正解が明日も正しいとは限りません。

そのような中では、自ら課題をみつけ、解決策を考え、そして実行し続けていく姿勢が求められます。大学の4年間では、考えながら行動し続ける姿勢、言い換えれば PDS (Plan,Do,See) サイクルを回して行ける基本的な力を身につけてほしいと思えます。

最初は小さな一歩で構いません。半年の間に、授業をきっかけにして、何か行動してみることを目指しましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

環境の動向を考慮しながら参加型の授業スタイルをできる限り取り入れ、教員や学生同士のコミュニケーション機会を設けます（グループワーク、対話、レポートのフィードバックなど）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	本科目の授業主旨、授業計画、進め方、成績評価方法、求められる参加態度等について概要を説明します。併せて、授業受講に必要なシステムの活用法、学生相談室やキャリアセンター等の窓口の利用法、学生生活上の注意事項などに関する情報の提供を行います。
第 2 回	キャリア・キャリアデザインに関する諸理論	キャリアとは？ キャリアデザインとは？ 語源や定義、さまざまな捉え方を解説します。さらにキャリアデザインを学ぶ意義についても考えていきます。
第 3 回	大学での学び	大学とはどういう場なのか、何のために大学で学ぶのか、大学の付加価値等について考えていきます。また、大学での学び方についても触れていきます。

第 4 回	自己理解と自分を伝える技術	アセスメント活用し自分の特徴についての理解（自己理解）を深めていきます。自分の意見や感情を伝える「アサーション」を学び、今後実践できるようになること。落ち込んでもしなやかに立ち直る力を理解し養っていきます。
第 5 回	学生と社会人	社会人に求められていることとは？ 学生とは何が異なるのだろうか。それぞれの役割を比較し、社会人基礎力やライフスキルなどを理解することで、現在の自分の強みや将来にむけて強化すべき力を考えていきます。
第 6 回	学生生活と就職の準備	本学の学生は、卒業後の進路として 9 割が就職をします。就職がキャリアのゴールではないが、多くの学生が直面する就職活動がいつ頃から始まり、どのような準備が必要かを卒業生のデータを踏まえながらキャリアセンター職員が解説します。
第 7 回	働き方と多様性	変化の激しい社会において自分らしく働くには、多様な選択があります。労働の領域におけるダイバーシティー（多様性）、多様な雇用形態、パラレルキャリアなどについて考えていきます。
第 8 回	プロフェッショナルのキャリア	好きや得意を仕事にするのは理想的なキャリア選択のひとつです。専門領域でプロフェッショナルとして活躍するには、自身で目標を設定し、掲げた目標やビジョンを実現するための努力、行動、セルフマネジメントが必要です。プロフェッショナルとは？ を一緒に考えていきます。
第 9 回	インターンシップ	インターンシップとひとことで言っても多様なタイプがあり、それぞれに期待できる効果も異なります。インターンシップは大学に在学しながら社会人としての体験を企業の内側から体感ができる貴重な機会です。本授業では 窓口であるキャリアセンター職員が過去の先輩の事例や参加する際の注意点などを解説します。
第 10 回	働くことの意味	働く意味・働きがいとは何かを考えていきます。自分の周りで仕事をしている人（親、兄弟、親戚など）にインタビューを実施して、その結果を持ち寄り共有します。身近な大人は、何のために働いているのかを議論し発表します。またアルバイトは就業経験としてどの程度の意味があるのかを考えてみます。
第 11 回	パーパスが企業と社員に与える影響とは	目的・意図を表す「パーパス」。ビジネスシーンでは「何のために組織や企業が存在するのか」「社員は何のために働いているのか」という「存在意義」を表す概念として使われています。こうしたパーパス＝存在意義を重視する経営が国内外で注目を集めています。パーパスが求められる背景・導入プロセス。パーパスが企業ブランドや社員に与える影響について解説をしていきます。

- 第12回 やる気とモチベーション
 これまでの自分を振り返り、自身の価値観の形成、やる気に影響を与えた出来事や人との出会いなど、モチベーションの源泉を見つけていきます。モチベーションを高め、維持する有効な考え方や方法も学んでいきます。
- 第13回 グローバル人材とは
 グローバル化社会で活躍する人材になるには、英語をはじめとした外国語の能力は確かに大切です。さらに異文化を理解する能力などが求められます。「グローバル人材」「グローバル化社会」について議論します。
- 第14回 学生生活の過ごし方
 春学期が終わろうとしているいま、これから卒業までの3年半をどう過ごすかを考えていきます。卒業までに成し遂げたいことと、それを成し遂げるためにどのような活動が必要かを具体的に書き出し「明日から取り組むこと」を決め、グループ内で共有していきます。私たちが活用できるブランドハプスタンス理論・意思決定理論などを紹介していきます。またどのような人材として成長していくのが望ましいかについて考えていきます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。授業において事前課題を実施していただく回があります。事前課題は、授業内及び学習支援システムにてお知らせします。

【テキスト（教科書）】

特に定めない。学習支援システムにて資料を共有します。必要に応じてダウンロードやプリントアウトをして、学習に役立ててください。

【参考書】

授業の中で適宜指示をします。

【成績評価の方法と基準】

- ・毎回のリアクションペーパー提出＝出席＜35％＞、授業への貢献＝発言・発表・質問・課題レポートへの取り組み＜25％＞ 期末レポート＜40％＞、
- ・リアクションペーパーの提出をもって出席確認をします。各授業テーマについての理解度や新たな気づきなど、記述内容・論理構成・文字数・締切日までの提出等評価します。
- ・授業への貢献は、発言・発表・質問・レポートへの積極的な取り組みや記述内容・姿勢等評価をいたします。

【学生の意見等からの気づき】

- ・昨年度の授業は、学生同士のグループディスカッション・学生と担当教員との対話・社会で活躍するゲストスピーカーの講演と質疑応答など、双方向のコミュニケーションを活発に行ってきました。
- ・学生の意見を踏まえて、今年度も、学生と教員・学生同士・学生と先輩社会人との相互コミュニケーションを活発におこなう機会を引き続き重視します。
- ・対面授業でも複数人数によるグループディスカッションを、実施したかったという意見がありました。対面では、履修人数・環境・状況等を考慮し、少人数グループの意見交換の実施。オンライン授業では、ブレイクアウトルームを活用した複数人数によるディスカッションを適宜実施する予定です。

【学生が準備すべき機器他】

- ・オンライン授業用の通信端末機器（パソコンの使用を推奨します）
 - ・筆記用具
 - ・本授業用の専用ノート（デジタルも可）
 - ・課題・リアクションペーパーの提出は「学習支援システム」を通じて行う。
- ※他に必要なものがあれば、授業の中で適宜指示をします。

【その他の重要事項】

【受講制限】 本授業の第1回目授業開始前日時点において仮登録者が教室定員を上回った場合はハイフレックス授業になります（クラスを2つに分けて、1回おきに教室授業とオンライン授業を交互に受講）。なお、仮登録者が教室定員の2倍を超えた場合は抽選によって受講者を決定します。この場合、第1回目授業の前日までに履修の仮登録をしていなかった学生は抽選の対象とならないため、受講できません。

●各テーマの授業実施日や形態が変更になる可能性があります。各回の授業テーマや形態の詳細は、逐次「学習支援システム」よりお知らせします。

●課題・リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

●担当教員は、コンサルティングファーム、IT・メーカー企業にて約20年以上にわたる人事部門での実務経験があります。現在はメーカーに勤務しています。

●企業や大学等で、社員や学生のキャリアカウンセリングを実施し、様々な個別相談にもつてきました。相談件数は数千件に及びます。フリーランスのキャリアコンサルタントとしても仕事を請け負っています。

●授業では、これまでの私自身の経験・ネットワークや企業・組織の実態なども共有し、社会に出ていく準備期間にあたる大学時代でのキャリアデザインの重要性などを伝えていきます。

【Outline (in English)】

■ Course outline ■

This course introduces the concepts necessary for a long-term life, and basic knowledge of society and working.

Students are required to think about (1) how to spend at university and (2) working in society. It also enhances the skills needed to spend campus life meaningfully.

■ Learning Objectives ■

The aim of this course is to cultivate attitudes that you can think and act by yourself.

■ Learning activities outside of classroom ■

Before/after each class meeting, students will be expected to spend approx. four hours for each class meeting.

■ Grading Criteria /Policy ■

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Short report: 35% Term-end examination: 40% and In-class contribution: 25%.

CAR100LG

キャリアデザイン入門

大八木 智一

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 1/Fri.1 | キャンパス：市ヶ谷

備考（履修条件等）：

その他属性：〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、①大学での過ごし方、②社会で働くということについて、一緒に考えていくことで、皆さんが学生生活を有意義に過ごせるよう支援していきたいと思えます。

授業の中では、より長期的な人生を歩むうえで必要となる考え方や、社会で働くということについて基本的な知見を提供します。これらを通じて、自分で考えて自分で行動できるような姿勢を培うことが、この授業の目的です。

【到達目標】

自分の頭で考え、率先して行動できるようになることを目標とします。受験を含む高校まででは、課題が与えられ、正解をできるだけ早く見つける能力が求められてきました。しかし社会では、自ら問題を発見し、解決に向けて行動していく必要があります。また、誰かが正解を与えてくれるわけでもありません。正解も一つではないでしょう。今日の正解が明日も正しいとは限りません。

そのような中では、自ら課題をみつけ、解決策を考え、そして実行し続けていく姿勢が求められます。大学の4年間では、考えながら行動し続ける姿勢、言い換えればPDS（Plan,Do,See）サイクルを回していける基本的な力を身につけてほしいと思えます。

最初は小さな一歩でも構いません。半年の間に、授業をきっかけにして何か行動してみることを目指しましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

環境の動向を考慮しながら参加型の授業スタイルをできる限り取り入れ、教員や学生同士のコミュニケーション機会を設けます（グループワーク、対話、レポートのフィードバックなど）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション 【初回はオンデマンド授業になります】	本科目の授業趣旨、授業の進め方、求める参加態度、カリキュラム等について概要と授業を受講する意義について説明する。また学生生活を送るにあたって必要な支援を受けられる学内の機関について紹介する【キーワード：キャリアデザイン、大学生としての学生生活を始めよう！、困ったときのコンタクト先】
2	大学での学び	大学とはどのような場なのか、何のために大学で学ぶのか、大学の付加価値について考える。また、大学生時代にしかできない法政大学という場を有効に活用する学び方や、大学生として生活、学修していく際の基礎知識について学ぶ。【キーワード：自ら学ぶ、大学の活用】

3	激変する社会環境と直面する課題	現代は世界的に社会環境が激変している時代である。このような時代において社会が直面している課題をSDGsの観点から読み起こし、みなさん自身がこれらの諸課題に対してどのような関与、貢献ができそうかについて考える。併せて、わが国の将来に向けて重大な課題となっている少子高齢化の問題についても考えていく。 【キーワード：SDGs、少子高齢化、パンデミック】
4	働き方と多様性	これからの変化の激しい社会において自分を生かしていく働き方について考えていく。ダイバーシティーに関する基本的考え方に加え、雇用形態の変化やパラレルキャリア、短時間労働化の可能性、テレワークなど、新しい働き方のあり方について考える。 【キーワード：ダイバーシティー】
5	働くことの意味	働くとはどういうことなのか？これまでの主な労働論や労働観にも触れながら、これからの時代の「働く」を考えていく。特に、働く目標と目的、動機、働くことを通じての自己実現と幸福の追求、提供価値の対価としての報酬、これからの働き方などの側面から考えていく。【キーワード：労働観、働く目的】
6	結婚、家族、ジェンダーを取り巻く諸問題	社会生活を営んでいくための基礎的な単位であるとともに生活の基盤ともなる家族、および、その周辺で密接に関連している結婚やジェンダーに関する諸問題について考察する。併せて共働き問題、子育て問題、家族関係の変容についても触れていく。【キーワード：結婚、家族、ジェンダー】
7	グローバル化社会と異文化理解	これからの世の中はグローバルな活動が今まで以上に当たり前になってくる。そのような社会において活動していくためには各自がグローバル人材として成長していくことが必要である。そのためにはどのような資質を備えていくべきなのかについて学ぶ。【キーワード：グローバル化、カルチャーマップ】
8	インターンシップ	インターンシップとひとことで言っても多種多様なタイプがあり、それぞれに期待できる効果も異なる。インターンシップは大学に在学しながら社会人としての体験を企業の内側から体感ができる貴重な機会なので、積極的な参加を期待したい。本授業では本学でのインターンシップ参加の窓口であるキャリアセンターの職員が先輩たちの事例や参加する際の注意点などについて解説する。【キーワード：インターンシップ】

- 9 思考のメカニズム 自分自身の行動を計画し実践していくための基礎は、物事を正しくとらえ、正しく考え、正しく判断していくことである。ここでは、そのための基礎的技術について学ぶ。特に、思考のメカニズム、ロジカルシンキング、クリティカルシンキングを重点的に取り上げて学ぶ。【キーワード：ロジカルシンキング、クリティカルシンキング、フェルミ推定】
- 10 意思決定と認知バイアス いま身の回りで起きていることからのうち、皆さんのキャリアデザインに深くかかわってくる概念について基礎的な理解を深める。具体的には「ものごとの捉え方（認知）」、「自分が自由にできる裁量権（選択）」、「決めることに関するところの動き（意思決定）」について学んでいく。【キーワード：二重過程理論、認知バイアス】
- 11 仕事と幸福 キャリアデザインの究極的な目的は、キャリア形成を通じた幸福の追求である。ここでは様々な幸福論について触れたのちに、セリグマンの PERMA モデルを取り上げて、幸福（ウェルビーイング）になるための要素についてキャリアデザインの観点から考えていく。【キーワード：ウェルビーイング、PERMA モデル、自己効力、幸福経営】
- 12 チャンスを広げるための行動様式の改革 チャンスを広げられる人は自分の前にある偶然の出会いをチャンスとして捉えて行動できるかどうかにかかっている。自分でチャンスを広げていくことができる行動様式について 4S トランジション理論、ブランドハプンスタンス理論から学んでいく。【キーワード：4S トランジション理論、ブランドハプンスタンス理論、セレンディピティ】
- 13 学生生活と就職の準備 本学の学生は、卒業後の進路として 9 割が就職をする。就職がキャリアのゴールではないが、多くの学生が直面する就職活動がいつごろから始まり、どのような準備が必要なのかについて、卒業生のデータも踏まえながらキャリアセンターの職員が解説する。【キーワード：自己理解、就職活動】
- 14 学生時代の過ごし方 春学期が終わろうとしているいま、これから卒業までの 3 年半をどう過ごすかを考える。卒業までに成し遂げたいこと、それを成し遂げるためにどのような活動が必要かを具体的に議論する。そして、「明日から取り組むこと」をみなさん自身で決め、グループ内で共有する。【キーワード：過ごし方、付き合い方、自己戦略】

【テキスト（教科書）】

特に定めません。

【参考書】

授業内において、必要に応じて副読本、参考文献等を紹介しします。

【成績評価の方法と基準】

毎回の課題レポートの記述内容の評価を点数化し、それらを合計した総合点で評価（100 %）します。記述内容の評価においては、記述内容のオリジナリティ、論理構成、表現法を重点に評価します。単位取得には特段の事情がない限り課題レポートの期限内提出率と教室授業の出席率がともに 70 % 以上であることが必要です。また、課題レポートの総得点が満点の 60 % 以上であることが必要です。やむを得ない事情で期限内のレポートの提出が難しい場合には、早めに担当教員（大八木智一）と相談してください。

【学生の意見等からの気づき】

本年度より課題レポートの記述内容において、みなさんの「オリジナリティのある考え方」に対する評価を重点評価項目に加えます。世間一般の考え、どこかの本やネットに書いてあったような考えでなく、みなさん自身が自分の頭でよく練った「考え」を評価します。一般的に「正しい」考えより、みなさんが「考え抜いた」内容を記述内容には期待します。

【学生が準備すべき機器他】

当日示す授業資料は、「学習支援システム」にもアップするので、各自パソコン、タブレット等を教室に持参することが可能です。同じ授業資料は授業中においても教室内で投影します。また、授業内容は一定期間学習支援システム上で公開する（課題を除く資料のみ）ので、復習等にも活用してください。学習用の使用機材は、できればスマートフォンではなく、PC やタブレットを用意されることをお勧めします。

【その他の重要事項】

【授業形態の変更の可能性】 新型コロナ感染症の拡散状況によって、授業方法が春学期の途中でも変更になる場合があります。その場合は、随時ご連絡します。

【質問の受付】 授業内容等に関する質問、問い合わせにはメールで受け付けます。必要に応じて対面での対応も可能です。コンタクト先（担当教員）については授業開始後に（初回授業において）お知らせします。

【受講制限】 本授業の第 1 回目授業開始前日時点において仮登録者が教室定員を上回った場合はハイフレックス授業になります（クラスを 2 つに分けて、1 回おきに教室授業とオンライン授業を交互に受講）。なお、仮登録者が教室定員の 2 倍を超えた場合は抽選によって受講者を決定します。この場合、第 1 回目授業の前日までに履修の仮登録をしていなかった学生は抽選の対象とならないため、受講できません。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

This class provides you with the long-term career design concept. You need to live your life and basic knowledge you need to work in society.

【Learning Objectives】

The goal of this class is to find the problem, to think about the solution, and to have the ability to continue to perform.

【Leaning activities outside of class】

In addition to the lecture, this class requires at least four hours to prepare, review and create assignment report.

【Grading Criteria/Policy】

In the evaluation of the results, the content of each assignment report is evaluated as a total score. The on-time submission rate of the assignment report must be 70% or higher to earn credits. And also, the total score of the assignment report must be 60% or more of the perfect score.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習・課題レポートの作成等に要する時間は、講義時間以外に 4 時間以上を標準とします。より深い理解のために有益な資料、参考図書、作業等は授業内で示します。授業後にそれらに目を通したり、作業したり、インターネットや文献等の活用による自発的学習によって自分自身の知識やスキルの向上を目指すことを期待します。

CAR100LG

キャリアデザイン応用

大八木 智一

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
 曜日・時限：金 2/Fri.2 | キャンパス：市ヶ谷
 備考（履修条件等）：

その他属性：〈優〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、「組織活動と働き方・生き方」に焦点を当て、これからの企業等での組織活動の諸相の理解を通じて、自分自身のキャリアデザインのあり方を考えていくことを目的とします。

この授業を通じて、残された大学生活の時間を自分自身で有効にプロデュースしていくための素養を身につけていくことも大切な作業です。そのために、各自のキャリアをデザインしていくうえで考えておくべき多様な視点を提供し、それらを考慮に入れた各人の戦略的なキャリアデザインが構築できるように支援していきたいと思えます。

【到達目標】

この授業を通じて、これから長い人生となる皆さんが、自分たちの思い描く人生にできるだけ近づけるようになるための基本的な態度と構想力を身につけることが到達目標です。特にこの授業では、働き方・働き方と企業等での組織活動との接点に焦点を当てているので、本授業の受講を通じて、皆さんが自分自身の生き方や働き方に関して少しでも具体的にイメージできるようになり、それが皆さんなりのキャリアデザインを検討していくうえで活かせるようになることをめざします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

【この授業は教室での対面授業で実施します】

基本的には教室での対面で授業を実施しますが、新型コロナウイルスの感染状況等によって一部の授業回がオンラインに変更になる可能性があります。また、毎回の授業において各授業回に関連した課題を提示するので、一定期間内において指示された課題レポートの作成に取り組み、学習支援システムを利用して提出してください。（特に指示がない場合は、基本的に翌日までに提出）

教室での授業内では参加型の授業スタイルも可能な限り取り入れます。教員や学生同士のコミュニケーション機会を重視します（グループワーク、対話、フィードバック、リアクション・ペーパー等）。また、リアクションペーパー等におけるコメントや課題に関しては、授業内で紹介するなどしてフィードバックをします。

【その他の重要事項】の項目を必ず確認してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション 仕事研究① 「公務」	本講義の目的、達成目標、授業の進め方、成績評価方法の周知、授業に臨む姿勢、カリキュラムについての概要を説明する。併せて、この講義受講の意義について解説する。 ついで、公務の仕事について学んでいく。公務員は基本的には行政機関で働く人々を指すが、ここでは、公務員の仕事内容と役割、民間企業との働き方の違いに焦点をあてて学んでいく。
2	仕事研究② 「営業」	いくら良い商品やサービスが提供できて営業活動がないと企業はお金を得られない。ここではこの「営業」の仕事について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。
3	仕事研究③ 「企画」	企画の仕事は商品やサービスの企画だけでなく、会社の経営計画の分野におよぶ幅の広い仕事である。ここではこの「企画」の仕事について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。
4	仕事研究④ 「開発」	開発の仕事は一言でいうと企業において付加価値を創出していくための活動と言える。ここではこの「開発」の仕事について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。
5	仕事研究⑤ 「コンサルティング」	コンサルティングは、企業や団体が外部の頭脳（ノウハウ、専門知識、ネットワーク）を得たいときに活躍する仕事である。ここではこの「コンサルティング」の仕事について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。
6	仕事研究⑥ 「マーケティング」	マーケティングは、商品やサービスが効率的に売れるように、市場調査をはじめ製造、販売などの幅広い企業活動のプロセスに関与する仕事である。ここではこの「マーケティング」の仕事について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。
7	仕事研究⑦ 「海外市場でのビジネス」	現代における企業活動の領域は国内にとどまらず、多くの企業が海外の市場、顧客、企業とのかかわりあいの中でビジネスを展開している。ここではこの「海外市場でのビジネス」について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。
8	働き方研究① 「チームワーク」 【オンラインを予定】	組織が一定の成果を挙げるためには個々のメンバーが集団全体の目的をよく理解して、コミュニケーションをとりながら、必要に応じてお互いの考えや行動、態度などを調整しあうことが必要となる。ここでは、チームワークの特性を分析したうえで、優れたチームワークを育む方策を学ぶ。

- 9 働き方研究②
「リーダーシップ」
【オンラインを予定】
- 10 働き方研究③
「モチベーション」
- 11 働き方研究④
「メンタルヘルス」
- 12 キャリア戦略①
「キャリア選択の考え方」
- 13 キャリア戦略②
「人生の経営戦略」
- 14 キャリア戦略③
「自己実現に近づいたための行動様式変革戦略」
- リーダーシップとは、目的に向かって、あるいは目標達成のために構成メンバーやチームに対して働きかけて、具体的な行動を促す力のことである。ここではリーダーシップとそれを支えるフォロワーシップにも言及し、それらの特性や要素について整理するとともに、それぞれの育成方法について学んでいく。
- 自己実現を目指して生きていくためには、常に自分自身が成長し続け、自分自身を改革し続けることが重要な要素となる。ここでは、自分自身が成長していくために「強みの活かし方」「モチベーションの高め方」などの観点からの自分自身の考え方や行動を問い直していく。
- 仕事や生活を通じて生じるストレスによる心身への負荷や圧迫、あるいはものごとの捉え方によるネガティブな感情の形成は、自分自身のキャリア形成にマイナスに働くことが多い。そのため、ここでは心身の負荷を軽減するためのいくつかの方法を理論とともに学んでいく。
- キャリア選択の多様化が進む現代においては適職選びには正解はないが、これまでの調査や研究の活用によって、少なくともより「正解」に近い選択は可能である。ここでは職業選択において陥りがちな問題について、最近のキャリア選択理論を紹介しながら各自の正解に近づけるためのキャリア選択のあり方について検討を加える。
- 「自分自身のキャリア形成」＝「人生経営」と捉え、企業の経営理論で用いられる方法論の自分の人生経営戦略への応用を試みる。キャリア形成プロセスを通じて、各自が自分の望む人生の実現に少しでも近づいていくための考え方と行動について検討していきたい。
- これからの激動の社会を生き抜いていくためには、フレキシブルに自分自身を変化させ、チャンスを自分でお膳立てして、自分のキャリアの可能性を少しでも拡大していく行動が必要である。そのため、各自が行動様式を見直し、また行動様式を変革していく戦略を考えていく。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習・課題レポートの作成等に要する時間は、講義時間以外に4時間以上を標準とします。より深い理解のために有益な資料、参考図書、作業等は授業内で示します。授業後にそれらに目を通したり、作業したり、インターネットや文献等の活用による自発的学習によって自分自身の知識やスキルの向上を目指すことを期待します。

【テキスト（教科書）】

特に定めません。

【参考書】

授業内で都度紹介します。

【成績評価の方法と基準】

毎回の課題レポートの記述内容の評価を点数化し、それらを合計した総合点で評価（100%）します。記述内容の評価においては、記述内容のオリジナリティ、論理構成、表現法を重点に評価します。単位取得には特段の事情がない限り課題レポートの期限内提出率と教室授業の出席率がともに70%以上であることが必要です。また、課題レポートの総得点が満点の60%以上であることが必要です。やむを得ない事情で期限内のレポートの提出が難しい場合には、早めに担当教員（大八木智一）と相談してください。

【学生の意見等からの気づき】

本年度より課題レポートの記述内容において、みなさんの「オリジナリティのある考え方」に対する評価を重点評価項目に加えます。世間一般の考え、どこかの本やネットに書いてあったような考えでなく、みなさん自身が自分の頭でよく練った「考え」を評価します。一般的に「正しい」考えより、みなさんが「考え抜いた」内容を記述内容には期待します。

【学生が準備すべき機器他】

当日示す授業資料は、「学習支援システム」にもアップするので、各自パソコン、タブレット等を教室に持参することが可能です。同じ授業資料は授業中においても教室内で投影します。また、授業内容は一定期間学習支援システム上で公開する（課題を除く資料のみ）ので、復習等にも活用してください。学習用の使用機材は、できればスマートフォンではなく、PCやタブレットを用意されることをお勧めします。

【その他の重要事項】

【授業形態の変更の可能性】 新型コロナウイルス感染症の拡散状況によって、授業方法が秋学期の途中でも変更になる場合があります。その場合は、随時ご連絡します。

【質問の受付】 授業内容等に関する質問、問い合わせにはメールで受け付けます。必要に応じて対面での対応も可能です。コンタクト先（担当教員）については授業開始後に（初回授業において）お知らせします。

【受講制限】 本授業の第1回目授業開始前日時点において仮登録者が教室定員を上回った場合はハイフレックス授業になります（クラスを2つに分けて、1回おきに教室授業とオンライン授業を交互に受講）。なお、仮登録者が教室定員の2倍を超えた場合は抽選によって受講者を決定します。この場合、第1回目授業の前日までに履修の仮登録をしていなかった学生は抽選の対象とならないため、受講できません。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

In this class provides a variety of perspective that you should consider as you design your career.

【Leaning Objectives】

The goal of this class is to develop a basic attitude and a conceptual ability to get as close as possible to the life that you envision.

【Leaning activities outside of classroom】

In addition to the lecture, this class requires at least four hours to prepare, review and create assignment report.

【Grading Criteria/Policy】

In the evaluation of the results, the content of each assignment report is evaluated as a total score. The on-time submission rate of the assignment report must be 70% or higher to earn credits. And also, the total score of the assignment report must be 60% or more of the perfect score.

CAR100LG

キャリアデザイン応用

大八木 智一

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
 曜日・時限：水 3/Wed.3 | キャンパス：市ヶ谷
 備考（履修条件等）：

その他属性：〈優〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、「組織活動と働き方・生き方」に焦点を当て、これからの企業等での組織活動の諸相の理解を通じて、自分自身のキャリアデザインのあり方を考えていくことを目的とします。

この授業を通じて、残された大学生活の時間を自分自身で有効にプロデュースしていくための素養を身につけていくことも大切な作業です。そのために、各自のキャリアをデザインしていくうえで考えておくべき多様な視点を提供し、それらを考慮に入れた各人の戦略的なキャリアデザインが構築できるように支援していきたいと思いをします。

【到達目標】

この授業を通じて、これから長い人生となる皆さんが、自分たちの思い描く人生にできるだけ近づけるようになるための基本的な態度と構想力を身につけることが到達目標です。特にこの授業では、働き方・働き方と企業等での組織活動との接点に焦点を当てているので、本授業の受講を通じて、皆さんが自分自身の生き方や働き方に関して少しでも具体的にイメージできるようになり、それが皆さんなりのキャリアデザインを検討していくうえで活かせるようになることをめざします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

【この授業は教室での対面授業で実施します】

基本的には教室での対面で授業を実施しますが、新型コロナウイルスの感染状況等によって一部の授業回がオンラインに変更になる可能性があります。また、毎回の授業において各授業回に関連した課題を提示するので、一定期間内において指示された課題レポートの作成に取り組み、学習支援システムを利用して提出してください。（特に指示がない場合は、基本的に翌日までに提出）

教室での授業内では参加型の授業スタイルも可能な限り取り入れます。教員や学生同士のコミュニケーション機会を重視します（グループワーク、対話、フィードバック、リアクション・ペーパー等）。また、リアクションペーパー等におけるコメントや課題に関しては、授業内で紹介するなどしてフィードバックをします。

【その他の重要事項】の項目を必ず確認してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション 仕事研究① 「公務」	本講義の目的、達成目標、授業の進め方、成績評価方法の周知、授業に臨む姿勢、カリキュラムについての概要を説明する。併せて、この講義受講の意義について解説する。 ついで、公務の仕事について学んでいく。公務員は基本的には行政機関で働く人々を指すが、ここでは、公務員の仕事内容と役割、民間企業との働き方の違いに焦点をあてて学んでいく。
2	仕事研究② 「営業」	いくら良い商品やサービスが提供できて営業活動がないと企業はお金を得られない。ここではこの「営業」の仕事について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。
3	仕事研究③ 「企画」	企画の仕事は商品やサービスの企画だけでなく、会社の経営計画の分野におよぶ幅の広い仕事である。ここではこの「企画」の仕事について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。
4	仕事研究④ 「開発」	開発の仕事は一言でいうと企業において付加価値を創出していくための活動と言える。ここではこの「開発」の仕事について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。
5	仕事研究⑤ 「コンサルティング」	コンサルティングは、企業や団体が外部の頭脳（ノウハウ、専門知識、ネットワーク）を得たいときに活躍する仕事である。ここではこの「コンサルティング」の仕事について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。
6	仕事研究⑥ 「マーケティング」	マーケティングは、商品やサービスが効率的に売れるように、市場調査をはじめ製造、販売などの幅広い企業活動のプロセスに関与する仕事である。ここではこの「マーケティング」の仕事について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。
7	仕事研究⑦ 「海外市場でのビジネス」	現代における企業活動の領域は国内にとどまらず、多くの企業が海外の市場、顧客、企業とのかかわりあいの中でビジネスを展開している。ここではこの「海外市場でのビジネス」について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。
8	働き方研究① 「チームワーク」 【オンラインを予定】	組織が一定の成果を挙げるためには個々のメンバーが集団全体の目的をよく理解して、コミュニケーションをとりながら、必要に応じてお互いの考えや行動、態度などを調整しあうことが必要となる。ここでは、チームワークの特性を分析したうえで、優れたチームワークを育む方策を学ぶ。

- 9 働き方研究②
「リーダーシップ」
【オンラインを予定】
- 10 働き方研究③
「モチベーション」
- 11 働き方研究④
「メンタルヘルス」
- 12 キャリア戦略①
「キャリア選択の考え方」
- 13 キャリア戦略②
「人生の経営戦略」
- 14 キャリア戦略③
「自己実現に近づいたための行動様式変革戦略」
- リーダーシップとは、目的に向かって、あるいは目標達成のために構成メンバーやチームに対して働きかけて、具体的な行動を促す力のことである。ここではリーダーシップとそれを支えるフォロワーシップにも言及し、それらの特性や要素について整理するとともに、それぞれの育成方法について学んでいく。
- 自己実現を目指して生きていくためには、常に自分自身が成長し続け、自分自身を改革し続けることが重要な要素となる。ここでは、自分自身が成長していくために「強みの活かし方」「モチベーションの高め方」などの観点からの自分自身の考え方や行動を問い直していく。
- 仕事や生活を通じて生じるストレスによる心身への負荷や圧迫、あるいはものごとの捉え方によるネガティブな感情の形成は、自分自身のキャリア形成にマイナスに働くことが多い。そのため、ここでは心身の負荷を軽減するためのいくつかの方法を理論とともに学んでいく。
- キャリア選択の多様化が進む現代においては適職選びには正解はないが、これまでの調査や研究の活用によって、少なくともより「正解」に近い選択は可能である。ここでは職業選択において陥りがちな問題について、最近のキャリア選択理論を紹介しながら各自の正解に近づけるためのキャリア選択のあり方について検討を加える。
- 「自分自身のキャリア形成」＝「人生経営」と捉え、企業の経営理論で用いられる方法論の自分の人生経営戦略への応用を試みる。キャリア形成プロセスを通じて、各自が自分の望む人生の実現に少しでも近づいていくための考え方と行動について検討していきたい。
- これからの激動の社会を生き抜いていくためには、フレキシブルに自分自身を変化させ、チャンスを自分でお膳立てして、自分のキャリアの可能性を少しでも拡大していく行動が必要である。そのため、各自が行動様式を見直し、また行動様式を変革していく戦略を考えていく。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習・課題レポートの作成等に要する時間は、講義時間以外に4時間以上を標準とします。より深い理解のために有益な資料、参考図書、作業等は授業内で示します。授業後にそれらに目を通したり、作業したり、インターネットや文献等の活用による自発的学習によって自分自身の知識やスキルの向上を目指すことを期待します。

【テキスト（教科書）】

特に定めません。

【参考書】

授業内で都度紹介します。

【成績評価の方法と基準】

毎回の課題レポートの記述内容の評価を点数化し、それらを合計した総合点で評価(100%)します。記述内容の評価においては、記述内容のオリジナリティ、論理構成、表現法を重点に評価します。単位取得には特段の事情がない限り課題レポートの期限内提出率と教室授業の出席率がともに70%以上であることが必要です。また、課題レポートの総得点が満点の60%以上であることが必要です。やむを得ない事情で期限内のレポートの提出が難しい場合には、早めに担当教員(大八木智一)と相談してください。

【学生の意見等からの気づき】

本年度より課題レポートの記述内容において、みなさんの「オリジナリティのある考え方」に対する評価を重点評価項目に加えます。世間一般の考え、どこかの本やネットに書いてあったような考えでなく、みなさん自身が自分の頭でよく練った「考え」を評価します。一般的に「正しい」考えより、みなさんが「考え抜いた」内容を記述内容には期待します。

【学生が準備すべき機器他】

当日示す授業資料は、「学習支援システム」にもアップするので、各自パソコン、タブレット等を教室に持参することが可能です。同じ授業資料は授業中においても教室内で投影します。また、授業内容は一定期間学習支援システム上で公開する(課題を除く資料のみ)ので、復習等にも活用してください。学習用の使用機材は、できればスマートフォンではなく、PCやタブレットを用意されることをお勧めします。

【その他の重要事項】

【授業形態の変更の可能性】 新型コロナウイルス感染症の拡散状況によって、授業方法が秋学期の途中でも変更になる場合があります。その場合は、随時ご連絡します。

【質問の受付】 授業内容等に関する質問、問い合わせにはメールで受け付けます。必要に応じて対面での対応も可能です。コンタクト先(担当教員)については授業開始後に(初回授業において)お知らせします。

【受講制限】 本授業の第1回目授業開始前日時点において仮登録者が教室定員を上回った場合はハイフレックス授業になります(クラスを2つに分けて、1回おきに教室授業とオンライン授業を交互に受講)。なお、仮登録者が教室定員の2倍を超えた場合は抽選によって受講者を決定します。この場合、第1回目授業の前日までに履修の仮登録をしていなかった学生は抽選の対象とならないため、受講できません。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

In this class provides a variety of perspective that you should consider as you design your career.

【Leaning Objectives】

The goal of this class is to develop a basic attitude and a conceptual ability to get as close as possible to the life that you envision.

【Leaning activities outside of classroom】

In addition to the lecture, this class requires at least four hours to prepare, review and create assignment report.

【Grading Criteria/Policy】

In the evaluation of the results, the content of each assignment report is evaluated as a total score. The on-time submission rate of the assignment report must be 70% or higher to earn credits. And also, the total score of the assignment report must be 60% or more of the perfect score.

CAR100LG

キャリアデザイン応用

大八木 智一

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
 曜日・時限：水 4/Wed.4 | キャンパス：市ヶ谷
 備考（履修条件等）：
 その他属性：〈優〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、「組織活動と働き方・生き方」に焦点を当て、これからの企業等での組織活動の諸相の理解を通じて、自分自身のキャリアデザインのあり方を考えていくことを目的とします。

この授業を通じて、残された大学生活の時間を自分自身で有効にプロデュースしていくための素養を身につけていくことも大切な作業です。そのために、各自のキャリアをデザインしていくうえで考えておくべき多様な視点を提供し、それらを考慮に入れた各人の戦略的なキャリアデザインが構築できるように支援していきたいと思いをします。

【到達目標】

この授業を通じて、これから長い人生となる皆さんが、自分たちの思い描く人生にできるだけ近づけるようになるための基本的な態度と構想力を身につけることが到達目標です。特にこの授業では、働き方・働き方と企業等での組織活動との接点に焦点を当てているので、本授業の受講を通じて、皆さんが自分自身の生き方や働き方に関して少しでも具体的にイメージできるようになり、それが皆さんなりのキャリアデザインを検討していくうえで活かせるようになることをめざします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

【この授業は教室での対面授業で実施します】

基本的には教室での対面で授業を実施しますが、新型コロナウイルスの感染状況等によって一部の授業回がオンラインに変更になる可能性があります。また、毎回の授業において各授業回に関連した課題を提示するので、一定期間内において指示された課題レポートの作成に取り組み、学習支援システムを利用して提出してください。（特に指示がない場合は、基本的に翌日までに提出）

教室での授業内では参加型の授業スタイルも可能な限り取り入れます。教員や学生同士のコミュニケーション機会を重視します（グループワーク、対話、フィードバック、リアクション・ペーパー等）。また、リアクションペーパー等におけるコメントや課題に関しては、授業内で紹介するなどしてフィードバックをします。

【その他の重要事項】の項目を必ず確認してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション 仕事研究① 「公務」	本講義の目的、達成目標、授業の進め方、成績評価方法の周知、授業に臨む姿勢、カリキュラムについての概要を説明する。併せて、この講義受講の意義について解説する。 ついで、公務の仕事について学んでいく。公務員は基本的には行政機関で働く人々を指すが、ここでは、公務員の仕事内容と役割、民間企業との働き方の違いに焦点をあてて学んでいく。
2	仕事研究② 「営業」	いくら良い商品やサービスが提供できて営業活動がないと企業はお金を得られない。ここではこの「営業」の仕事について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。
3	仕事研究③ 「企画」	企画の仕事は商品やサービスの企画だけでなく、会社の経営計画の分野におよぶ幅の広い仕事である。ここではこの「企画」の仕事について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。
4	仕事研究④ 「開発」	開発の仕事は一言でいうと企業において付加価値を創出していくための活動と言える。ここではこの「開発」の仕事について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。
5	仕事研究⑤ 「コンサルティング」	コンサルティングは、企業や団体が外部の頭脳（ノウハウ、専門知識、ネットワーク）を得たいときに活躍する仕事である。ここではこの「コンサルティング」の仕事について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。
6	仕事研究⑥ 「マーケティング」	マーケティングは、商品やサービスが効率的に売れるように、市場調査をはじめ製造、販売などの幅広い企業活動のプロセスに関与する仕事である。ここではこの「マーケティング」の仕事について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。
7	仕事研究⑦ 「海外市場でのビジネス」	現代における企業活動の領域は国内にとどまらず、多くの企業が海外の市場、顧客、企業とのかかわりあいの中でビジネスを展開している。ここではこの「海外市場でのビジネス」について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。
8	働き方研究① 「チームワーク」 【オンラインを予定】	組織が一定の成果を挙げるためには個々のメンバーが集団全体の目的をよく理解して、コミュニケーションをとりながら、必要に応じてお互いの考えや行動、態度などを調整しあうことが必要となる。ここでは、チームワークの特性を分析したうえで、優れたチームワークを育む方策を学ぶ。

- 9 働き方研究②
「リーダーシップ」
【オンラインを予定】
- 10 働き方研究③
「モチベーション」
- 11 働き方研究④
「メンタルヘルス」
- 12 キャリア戦略①
「キャリア選択の考え方」
- 13 キャリア戦略②
「人生の経営戦略」
- 14 キャリア戦略③
「自己実現に近づくための行動様式変革戦略」

リーダーシップとは、目的に向かって、あるいは目標達成のために構成メンバーやチームに対して働きかけて、具体的な行動を促す力のことである。ここではリーダーシップとそれを支えるフォロワーシップにも言及し、それらの特性や要素について整理するとともに、それぞれの育成方法について学んでいく。

自己実現を目指して生きていくためには、常に自分自身が成長し続け、自分自身を改革し続けることが重要な要素となる。ここでは、自分自身が成長していくために「強みの活かし方」「モチベーションの高め方」などの観点からの自分自身の考え方や行動を問い直していく。

仕事や生活を通じて生じるストレスによる心身への負荷や圧迫、あるいはものごとの捉え方によるネガティブな感情の形成は、自分自身のキャリア形成にマイナスに働くことが多い。そのため、ここでは心身の負荷を軽減するためのいくつかの方法を理論とともに学んでいく。

キャリア選択の多様化が進む現代においては適職選びには正解はないが、これまでの調査や研究の活用によって、少なくともより「正解」に近い選択は可能である。ここでは職業選択において陥りがちな問題について、最近のキャリア選択理論を紹介しながら各自の正解に近づけるためのキャリア選択のあり方について検討を加える。

「自分自身のキャリア形成」＝「人生経営」と捉え、企業の経営理論で用いられる方法論の自分の人生経営戦略への応用を試みる。キャリア形成プロセスを通じて、各自が自分の望む人生の実現に少しでも近づいていくための考え方と行動について検討していきたい。

これからの激動の社会を生き抜いていくためには、フレキシブルに自分自身を変化させ、チャンスを自分でお膳立てして、自分のキャリアの可能性を少しでも拡大していく行動が必要である。そのため、各自が行動様式を見直し、また行動様式を変革していく戦略を考えていく。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習・課題レポートの作成等に要する時間は、講義時間以外に4時間以上を標準とします。より深い理解のために有益な資料、参考図書、作業等は授業内で示します。授業後にそれらに目を通したり、作業したり、インターネットや文献等の活用による自発的学習によって自分自身の知識やスキルの向上を目指すことを期待します。

【テキスト（教科書）】

特に定めません。

【参考書】

授業内で都度紹介します。

【成績評価の方法と基準】

毎回の課題レポートの記述内容の評価を点数化し、それらを合計した総合点で評価（100%）します。記述内容の評価においては、記述内容のオリジナリティ、論理構成、表現法を重点に評価します。単位取得には特段の事情がない限り課題レポートの期限内提出率と教室授業の出席率がともに70%以上であることが必要です。また、課題レポートの総得点が満点の60%以上であることが必要です。やむを得ない事情で期限内のレポートの提出が難しい場合には、早めに担当教員（大八木智一）と相談してください。

【学生の意見等からの気づき】

本年度より課題レポートの記述内容において、みなさんの「オリジナリティのある考え方」に対する評価を重点評価項目に加えます。世間一般の考え、どこかの本やネットに書いてあったような考えでなく、みなさん自身が自分の頭でよく練った「考え」を評価します。一般的に「正しい」考えより、みなさんが「考え抜いた」内容を記述内容には期待します。

【学生が準備すべき機器他】

当日示す授業資料は、「学習支援システム」にもアップするので、各自パソコン、タブレット等を教室に持参することが可能です。同じ授業資料は授業中においても教室内で投影します。また、授業内容は一定期間学習支援システム上で公開する（課題を除く資料のみ）ので、復習等にも活用してください。学習用の使用機材は、できればスマートフォンではなく、PCやタブレットを用意されることをお勧めします。

【その他の重要事項】

【授業形態の変更の可能性】 新型コロナウイルス感染症の拡散状況によって、授業方法が秋学期の途中でも変更になる場合があります。その場合は、随時ご連絡します。

【質問の受付】 授業内容等に関する質問、問い合わせにはメールで受け付けます。必要に応じて対面での対応も可能です。コンタクト先（担当教員）については授業開始後に（初回授業において）お知らせします。

【受講制限】 本授業の第1回目授業開始前日時点において仮登録者が教室定員を上回った場合はハイフレックス授業になります（クラスを2つに分けて、1回おきに教室授業とオンライン授業を交互に受講）。なお、仮登録者が教室定員の2倍を超えた場合は抽選によって受講者を決定します。この場合、第1回目授業の前日までに履修の仮登録をしていなかった学生は抽選の対象とならないため、受講できません。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

In this class provides a variety of perspective that you should consider as you design your career.

【Leaning Objectives】

The goal of this class is to develop a basic attitude and a conceptual ability to get as close as possible to the life that you envision.

【Leaning activities outside of classroom】

In addition to the lecture, this class requires at least four hours to prepare, review and create assignment report.

【Grading Criteria/Policy】

In the evaluation of the results, the content of each assignment report is evaluated as a total score. The on-time submission rate of the assignment report must be 70% or higher to earn credits. And also, the total score of the assignment report must be 60% or more of the perfect score.

CAR100LG

キャリアデザイン応用

大八木 智一

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
 曜日・時限：金 1/Fri.1 | キャンパス：市ヶ谷
 備考（履修条件等）：

その他属性：〈優〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、「組織活動と働き方・生き方」に焦点を当て、これからの企業等での組織活動の諸相の理解を通じて、自分自身のキャリアデザインのあり方を考えていくことを目的とします。

この授業を通じて、残された大学生活の時間を自分自身で有効にプロデュースしていくための素養を身につけていくことも大切な作業です。そのために、各自のキャリアをデザインしていくうえで考えておくべき多様な視点を提供し、それらを考慮に入れた各人の戦略的なキャリアデザインが構築できるように支援していきたいと思えます。

【到達目標】

この授業を通じて、これから長い人生となる皆さんが、自分たちの思い描く人生にできるだけ近づけるようになるための基本的な態度と構想力を身につけることが到達目標です。特にこの授業では、働き方・働き方と企業等での組織活動との接点に焦点を当てているので、本授業の受講を通じて、皆さんが自分自身の生き方や働き方に関して少しでも具体的にイメージできるようになり、それが皆さんなりのキャリアデザインを検討していくうえで活かせるようになることをめざします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

【この授業は教室での対面授業で実施します】

基本的には教室での対面で授業を実施しますが、新型コロナの感染状況等によって一部の授業回がオンラインに変更になる可能性があります。また、毎回の授業において各授業回に関連した課題を提示するので、一定期間内において指示された課題レポートの作成に取り組み、学習支援システムを利用して提出してください。（特に指示がない場合は、基本的に翌日までに提出）

教室での授業内では参加型の授業スタイルも可能な限り取り入れます。教員や学生同士のコミュニケーション機会を重視します（グループワーク、対話、フィードバック、リアクション・ペーパー等）。また、リアクションペーパー等におけるコメントや課題に関しては、授業内で紹介するなどしてフィードバックをします。

【その他の重要事項】の項目を必ず確認してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション 仕事研究① 「公務」	本講義の目的、達成目標、授業の進め方、成績評価方法の周知、授業に臨む姿勢、カリキュラムについての概要を説明する。併せて、この講義受講の意義について解説する。 ついで、公務の仕事について学んでいく。公務員は基本的には行政機関で働く人々を指すが、ここでは、公務員の仕事内容と役割、民間企業との働き方の違いに焦点をあてて学んでいく。
2	仕事研究② 「営業」	いくら良い商品やサービスが提供できて営業活動がないと企業はお金を得られない。ここではこの「営業」の仕事について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。
3	仕事研究③ 「企画」	企画の仕事は商品やサービスの企画だけでなく、会社の経営計画の分野におよぶ幅の広い仕事である。ここではこの「企画」の仕事について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。
4	仕事研究④ 「開発」	開発の仕事は一言でいうと企業において付加価値を創出していくための活動と言える。ここではこの「開発」の仕事について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。
5	仕事研究⑤ 「コンサルティング」	コンサルティングは、企業や団体が外部の頭脳（ノウハウ、専門知識、ネットワーク）を得たいときに活躍する仕事である。ここではこの「コンサルティング」の仕事について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。
6	仕事研究⑥ 「マーケティング」	マーケティングは、商品やサービスが効率的に売れるように、市場調査をはじめ製造、販売などの幅広い企業活動のプロセスに関与する仕事である。ここではこの「マーケティング」の仕事について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。
7	仕事研究⑦ 「海外市場でのビジネス」	現代における企業活動の領域は国内にとどまらず、多くの企業が海外の市場、顧客、企業とのかかわりあいの中でビジネスを展開している。ここではこの「海外市場でのビジネス」について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。
8	働き方研究① 「チームワーク」 【オンラインを予定】	組織が一定の成果を挙げるためには個々のメンバーが集団全体の目的をよく理解して、コミュニケーションをとりながら、必要に応じてお互いの考えや行動、態度などを調整しあうことが必要となる。ここでは、チームワークの特性を分析したうえで、優れたチームワークを育む方策を学ぶ。

- 9 働き方研究②
「リーダーシップ」
【オンラインを予定】
- 10 働き方研究③
「モチベーション」
- 11 働き方研究④
「メンタルヘルス」
- 12 キャリア戦略①
「キャリア選択の考え方」
- 13 キャリア戦略②
「人生の経営戦略」
- 14 キャリア戦略③
「自己実現に近づくための行動様式変革戦略」

リーダーシップとは、目的に向かって、あるいは目標達成のために構成メンバーやチームに対して働きかけて、具体的な行動を促す力のことである。ここではリーダーシップとそれを支えるフォロワーシップにも言及し、それらの特性や要素について整理するとともに、それぞれの育成方法について学んでいく。

自己実現を目指して生きていくためには、常に自分自身が成長し続け、自分自身を改革し続けることが重要な要素となる。ここでは、自分自身が成長していくために「強みの活かし方」「モチベーションの高め方」などの観点からの自分自身の考え方や行動を問い直していく。

仕事や生活を通じて生じるストレスによる心身への負荷や圧迫、あるいはものごとの捉え方によるネガティブな感情の形成は、自分自身のキャリア形成にマイナスに働くことが多い。そのため、ここでは心身の負荷を軽減するためのいくつかの方法を理論とともに学んでいく。

キャリア選択の多様化が進む現代においては適職選びには正解はないが、これまでの調査や研究の活用によって、少なくともより「正解」に近い選択は可能である。ここでは職業選択において陥りがちな問題について、最近のキャリア選択理論を紹介しながら各自の正解に近づけるためのキャリア選択のあり方について検討を加える。

「自分自身のキャリア形成」＝「人生経営」と捉え、企業の経営理論で用いられる方法論の自分の人生経営戦略への応用を試みる。キャリア形成プロセスを通じて、各自が自分の望む人生の実現に少しでも近づいていくための考え方と行動について検討していきたい。

これからの激動の社会を生き抜いていくためには、フレキシブルに自分自身を変化させ、チャンスを自分でお膳立てして、自分のキャリアの可能性を少しでも拡大していく行動が必要である。そのため、各自が行動様式を見直し、また行動様式を変革していく戦略を考えていく。

【成績評価の方法と基準】

毎回の課題レポートの記述内容の評価を点数化し、それらを合計した総合点で評価(100%)します。記述内容の評価においては、記述内容のオリジナリティ、論理構成、表現法を重点に評価します。単位取得には特段の事情がない限り課題レポートの期限内提出率と教室授業の出席率がともに70%以上であることが必要です。また、課題レポートの総得点が満点の60%以上であることが必要です。やむを得ない事情で期限内のレポートの提出が難しい場合には、早めに担当教員(大八木智一)と相談してください。

【学生の意見等からの気づき】

本年度より課題レポートの記述内容において、みなさんの「オリジナリティのある考え方」に対する評価を重点評価項目に加えます。世間一般の考え、どこかの本やネットに書いてあったような考えでなく、みなさん自身が自分の頭でよく練った「考え」を評価します。一般的に「正しい」考えより、みなさんが「考え抜いた」内容を記述内容には期待します。

【学生が準備すべき機器他】

当日示す授業資料は、「学習支援システム」にもアップするので、各自パソコン、タブレット等を教室に持参することが可能です。同じ授業資料は授業中においても教室内で投影します。また、授業内容は一定期間学習支援システム上で公開する(課題を除く資料のみ)ので、復習等にも活用してください。学習用の使用機材は、できればスマートフォンではなく、PCやタブレットを用意されることをお勧めします。

【その他の重要事項】

【授業形態の変更の可能性】 新型コロナウイルス感染症の拡散状況によって、授業方法が秋学期の途中でも変更になる場合があります。その場合は、随時ご連絡します。

【質問の受付】 授業内容等に関する質問、問い合わせにはメールで受け付けます。必要に応じて対面での対応も可能です。コンタクト先(担当教員)については授業開始後に(初回授業において)お知らせします。

【受講制限】 本授業の第1回目授業開始前日時点において仮登録者が教室定員を上回った場合はハイフレックス授業になります(クラスを2つに分けて、1回おきに教室授業とオンライン授業を交互に受講)。なお、仮登録者が教室定員の2倍を超えた場合は抽選によって受講者を決定します。この場合、第1回目授業の前日までに履修の仮登録をしていなかった学生は抽選の対象とならないため、受講できません。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

In this class provides a variety of perspective that you should consider as you design your career.

【Leaning Objectives】

The goal of this class is to develop a basic attitude and a conceptual ability to get as close as possible to the life that you envision.

【Leaning activities outside of classroom】

In addition to the lecture, this class requires at least four hours to prepare, review and create assignment report.

【Grading Criteria/Policy】

In the evaluation of the results, the content of each assignment report is evaluated as a total score. The on-time submission rate of the assignment report must be 70% or higher to earn credits. And also, the total score of the assignment report must be 60% or more of the perfect score.

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備・復習・課題レポートの作成等に要する時間は、講義時間以外に4時間以上を標準とします。より深い理解のために有益な資料、参考図書、作業等は授業内で示します。授業後にそれらに目を通したり、作業したり、インターネットや文献等の活用による自発的学習によって自分自身の知識やスキルの向上を目指すことを期待します。

【テキスト(教科書)】

特に定めません。

【参考書】

授業内で都度紹介します。

CMF100LE
課題解決型フィールドワーク
 YONGUE JULIA SALLE
 サブタイトル：Economic and social impact of the SDGs / Sustainable capitalism and SDGs
 開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
 曜日・時限：木 4/Thu.4 | キャンパス：市ヶ谷
 備考（履修条件等）：
 その他属性：〈グ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The purpose of this course is to offer students a practical approach (interactive lectures, fieldwork, problem-solving sessions, etc.) to the study of SDGs. Students will have opportunities to learn from specialists working to achieve SDGs and evaluate the impact of their activities on Japanese business and society.

【到達目標】

- (1) To provide students with a practical, experience-based approach to the study of Japanese business, corporate social responsibility, entrepreneurship, and sustainability.
- (2) To develop their analytical skills through interactive lectures, group discussions, and fieldwork.
- (3) To prepare them to enter the workforce by providing them with opportunities to improve their professional skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

This course is based entirely on active/experiential learning. Students will be presented with questions that they must try to answer themselves through interviews, fieldwork, readings, etc. The first half of the course focuses on some social problems facing Japan, while the second, considers the responsibility of companies vis-a-vis society.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	(1) Introduction	Explanation of the course and its themes/goals
2	(2) SDG1, SDG4, SDG10, SDG5, SDG8	Guest lecture and discussion on education issues in Japan
3	(3) SDG2, SDG3, SDG10, SDG11, SDG13, SDG15, SDG17	Guest lecture and discussion on urban farming in Tokyo
4	(4) SDG9, SDG11, SDG12, SDG13	Guest lecture and discussion on local entrepreneurship
5	(5) Midterm assessment	Presentations and problem-solving session
6	(6) SDG3, SDG 6, SDG7, SDG9, SDG11, SDG14, SDG15, SDG16, SDG17	Guest lecture and discussion on ethical business practices and CSR
7	(7) SDG9, SDG11, SDG15, SDG17	Full-day field trip to Ishizaka Sangyō in Saitama prefecture

8	Group work and problem-solving outside the classroom	Preparation of final presentation, fieldwork, and individual report
9	Group work and problem-solving outside the classroom	Preparation of final presentation, fieldwork, and individual report
10	Group work and problem-solving outside the classroom	Preparation of final presentation, fieldwork, and individual report
11	Group work and problem-solving outside the classroom	Preparation of final presentation, fieldwork, and individual report
12	(8)Presentations	Presentations of group fieldwork and discussion of findings
13	(9) Presentations	Presentations of group fieldwork and discussion of findings
14	(10) Presentations and final wrap-up	Presentations of group fieldwork and discussion of findings

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

In accordance with the university guidelines, preparation and review should be approximately two hours a week for a two-credit course. 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Reading assignments and other information concerning the course will be posted on Hoppii.

【参考書】

Selected references:

- (1) Ben Dooley and Satoko Ueno, "Why is this colorful little wheel suddenly everywhere in Japan?" New York Times, August 25, 2022.
- (2) T Terada, M. Yokohari, and M Amemiya, "Urban farming in Tokyo: toward an urban-rural hybrid city" in Green Asia: ecocultures, sustainable lifestyles, and ethical consumption, Tania Lewis, ed.
- (3) Myriam Sidibe (2020) "How LIXIL is changing the narrative on sanitation," in Brands on a mission: how to achieve social impact and business growth, Routledge.
- (4) Eiko Maruko Siniawer (2018), "Green consciousness" in Waste: Consuming Postwar Japan, Cornell University Press.
- (5) Catherine Knight (2010), The discourse of "encultured nature" in Japan: the concept of Satoyama and its role in 21st century nature conservation, Asian Studies Review.
- (5) T Hirose and Y Moro (2019), Socio-material arrangements of impoverished youths in Japan: historical and critical perspectives on neoliberalism, Mind, Culture, and Activity, 26:2, 156-170.

【成績評価の方法と基準】

Fieldwork, active discussion, and assignments: 40%
 Final report and presentation: 60%

As the courses is based on active/experiential learning, asking questions and making comments during all the interviews and field work is a requirement!

【学生の意見等からの気づき】

N/A
 Students are welcome to make requests or voice complaints and concerns at any time during the semester.

【学生が準備すべき機器他】

None

【その他の重要事項】

SCHEDULE: Because the course includes one full-day field trip, it will meet 10 rather than 14 times. The field trip will take place on a Saturday in late November or early December for which participation is mandatory. Transportation by bus to/from the fieldwork venue, and lunch will be fully covered by the university. A course schedule will be provided on the first day of class.

SELECTION: On the first day of class, 20 students will be selected to enroll. The selection process will be based on motivation and enthusiasm, academic interests, and career aspirations. As the course will be conducted in English, students should have an excellent command of English. They should also be able to write a final report in the proper academic style.

【Outline (in English)】

Outline and objectives:

The purpose of this course is to offer students a practical approach (interactive lectures, fieldwork, problem-solving sessions, etc.) to the study of SDGs. Students will have opportunities to learn from specialists working to achieve SDGs and evaluate the impact of their activities on Japanese business and society.

Learning activities outside of classroom: Students should prepare for class (doing reading assignments, preparing presentations, discussing with their group members, etc.) and conduct fieldwork outside of class.

Grading Criteria /Policy:

Participation and assignments: 40%

Final report and presentation: 60%

As the courses is based on active/experiential learning, asking questions and making comments during all the interviews and field work is a requirement!

CMF100LE

課題解決型フィールドワーク

高見 京太

サブタイトル：スポーツビジネスとしての競馬がもたらす人馬のウェルビーイング

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 4/Wed.4 | キャンパス：多摩

備考（履修条件等）：・授業の性質上、生年月日が 2003 年 11 月 11 日以前であることが履修条件となります。

・当科目は、フィールドワークへの参加が必須であり、これらは土曜日に計画されていますので、スケジュール管理は確実にしてください。

・受講希望者は【その他の重要事項】に記載の Google フォームに 4 月 10 日（月）23:59 までに申請をしてください。（→ 春学期の申請は締め切りました。定員に余裕があるため、8 月下旬～9 月上旬頃に再募集を行う予定です。）

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

我が国における競馬は、1861 年に最初のレースが行われてから 160 年の歴史を持ち、現在では 10 万人もの観客を集めるレースも行われ、その人気は新聞やテレビなどのメディアによる報道からも読み取れる。競馬で主に注目を集めるのは競走馬であるが、その背後には幅広い領域において多くの専門家が支えることで成り立っている。また、競馬は、我が国における大きな産業の一つでもあり、馬のレースというだけでなく、人々の暮らしに様々な影響を与えている。本講義では競馬をテーマとして、スポーツビジネス、サステイナブルな社会、そして人馬のウェルビーイング（健康で幸せな暮らし）のあり方について学ぶ。

【到達目標】

・競馬の歴史、国内外の競馬界、競走馬、競馬場について知り、スポーツとしての競馬を説明することができる。
 ・競馬ビジネスの戦略を理解し、ビジネスとして成立させている要因とその運営を支えるメカニズムについて関係づけることができる。
 ・競走馬のセカンドキャリアについて学び、人馬のウェルビーイングにつながる引退競走馬の利活用について述べるることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

・授業の質（特にフィールドワークにおいて）を確保するため、受講希望者が制限を超えた場合は、抽選による選抜を行う。
 ・競馬に関わる専門的な事項については JRA の協力を得て講義する。
 ・復習テストまたはショートレポートにより各回の学びを整理し、最後に、総まとめのレポート課題を提出する。

・開講時限は、水曜日 4 時限目の 3 キャンパスの授業時間が重なる 15:30 から 16:40 の 70 分間である。

したがって、市ヶ谷キャンパスの 4 時限目開始時刻の 30 分後から始まり、多摩キャンパスの 4 時限目終了時刻の 30 分前に終わる。

・講師が教室で講義するのは市ヶ谷が 7 回、多摩が 7 回（合計 14 回）であるが、受講する学生は、14 回の全てをそれぞれのキャンパスで受講する。

したがって、7 回は対面で、7 回は教室のスクリーンに映し出されるもう一方のキャンパスの授業を受講することになる。

・フィールドワークは、法政大学馬場（多摩キャンパス）と JRA 東京競馬場（府中市）において 2 回実施され、に現地集合・現地解散で参加する。

→ フィールドワーク I

実施日：10 月 14 日（土）9:30-13:00 予定

場所：法政大学多摩キャンパス城山校地

テーマ：人馬のウェルビーイング実践（馬の性質をより深く理解するために、馬とのふれあい、厩務作業、馬糞堆肥によるサステイナブルな農園での取組みを体験し、人馬のウェルビーイング活動の可能性や課題を探る。

→ フィールドワーク II

実施日：11 月 11 日（土）10:00-15:00 予定

場所：東京競馬場

テーマ：競馬関連施設および競馬見学により、それまでの学びを確認し、その後の学習内容をより深く理解するための知識を身につける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	学習内容の理解	本授業の概要を知り、学びの目的を明確化して、到達目標を確認する。そして、課題解決型フィールドワークとしての学習の計画を定める。 高見京太（スポーツ健康学部）：多摩から発信
2	競馬の概要	競馬とは何か、日本中央競馬会の業務とは何か、といった、競馬とそれを運営する日本中央競馬会（JRA）について理解する。 JRA 経営企画室：多摩から発信
3	競走馬の生産	競走馬を生産するうえで重要な馬の種付け、妊娠、出産、産後等の母馬と仔馬の疾病や注意点などについて理解し、馬の繁殖について学ぶ。 JRA 生産育成対策室：多摩から発信
4	競馬番組・競走体系	優秀な繁殖血統の選抜のために JRA が G1 を頂点としたレース体系を構築していることが重要であることを理解する。 JRA 番組企画室：市ヶ谷から発信
5	競馬法とその改正の歴史	競馬の実施において最も重要な法律となる「競馬法」の歴史を知り、競馬法に定められている内容、競馬法と今の競馬体系がどのように関連しているのかについて理解する。また、勝馬投票券の仕組みを学び、払い戻し率や投票券について理解する。 JRA 経営企画室：市ヶ谷から発信
6	ギャンブル等依存症対策	競馬がギャンブルであることは事実であり、競馬によるギャンブル等依存症が存在することを理解するとともに、JRA が取り組む依存症対策について学ぶ。 JRA 経営企画室：多摩から発信
7	競馬の舞台装置	競馬場のメインである馬場（芝コース・ダートコース）について学ぶとともに、職員が執務するエリアや観客エリアについても学び、競馬場という施設全体を知り、週末のフィールドワークに備える。 JRA 施設部：市ヶ谷から発信
8	競馬のプロモーション戦略	JRA の実施している各種プロモーションの目的や狙いを知り、そのために実施しているメディア戦略やイベント戦略について理解する。 JRA イベントプロモーション課：市ヶ谷から発信

- 9 映像コンテンツとしての競馬 JRA の歩みと競馬映像の歴史を知るとともに、映像コンテンツの役割や課題・今後の展望について学ぶ。
JRA 映像企画課：市ヶ谷から発信
- 10 インターネットを活用した販売戦略 JRA がこれまで取り組んできた勝馬投票券の発売の歴史を知るとともに、現在取り組んでいるインターネットを活用した販売戦略について理解する。
JRA お客様部ネット販売室ネット販売課：市ヶ谷から発信
- 11 馬事振興への取組み JRA が馬事振興に取組む意義や目的、実際にどのような馬事振興を行っているかについて理解する。
JRA 馬事振興課：多摩から発信
- 12 引退競走馬を軸にした循環型社会と農福連携 人馬のウェルビーイングに関連した実践を学習し、その応用の手段を考察する。
佐野竜平（現代福祉学部）：多摩から発信
- 13 世界の競馬 競馬は世界中で行われているが、その競馬の歴史や競馬の種類、日本の競馬の世界的な立ち位置や諸外国の競馬について学ぶ。
JRA 国際企画室：市ヶ谷から発信
- 14 引退競走馬のセカンドキャリア（リトレーニング） 競馬を引退した馬のセカンドキャリアにおける「リトレーニング」という手法を学び、それを大学で人馬のウェルビーイングに繋げる取組みを理解する。
柏村晋史（体育会馬術部監督）：多摩から発信

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- A. Learn about the history of horse racing, the domestic and international horse racing world, racehorses, and racecourses, and understand horse racing as a sport.

-B. Understand the strategy of horse racing business and gain systematic knowledge about the factors that establish the business and the mechanisms that support its operation.

-C. Learn about the second career of retired racehorses and understand the efforts of human horses for well-being.

Learning activities outside of classroom

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Grading Criteria /Policy

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Review test: 70% (5 points x 14 times)

Fieldwork report: 18% (9 points x 2 times)

Final report: 12% (12 points x 1 time)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

各回の復習テスト：70%（5 点 ×14 回）

フィールドワークのショートレポート：18%（9 点 ×2 回）

最終レポート：12%（12 点 ×1 回）

【学生の意見等からの気づき】

配信を受ける側の教室の受講者より、講師の声が聞き取りにくいことがあった、との指摘を受けたので、講師にマイクの使用方法について注意を促す。

【その他の重要事項】

・授業の性質上、生年月日が 2003 年 11 月 11 日以前であることが履修条件となります。

・当科目は、フィールドワークへの参加が必須であり、これらは土曜日に計画されていますので、スケジュール管理は確実にしてください。

・受講希望者が定員を超えた場合は、抽選による選抜を行いますので、受講希望者は以下 Google フォームに 4 月 10 日（月）23:59 までに申請をしてください。

（→ 春学期の申請は締切しました。定員に余裕があるため、8 月下旬～9 月上旬頃に再募集を行う予定です。）

<https://forms.gle/fdSGXxvT2Dtca3JN8>

【Outline (in English)】

Course outline

In this lecture, you will learn that horse racing is involved in the sports business, sustainable society, and well-being of human horses.

Learning Objectives

